

近畿厚生局長 殿

滋賀医科大学医学部附属病院  
病院長 柏木 厚典



滋賀医科大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3の規定に基づき、平成22年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	医科 78.5人	歯科 5人
--------	----------	-------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法 → 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績 → 別紙参照(様式第13)

7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

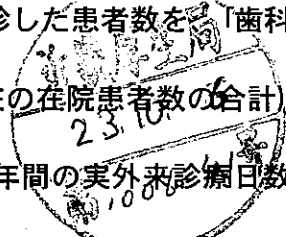
職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	221人	135.5人	356.5人	看護補助者	9人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	4人	6.4人	10.4人	理学療法士	10人	臨床検査技師	34人
薬剤師	25人	9.7人	34.7人	作業療法士	4人	臨床衛生検査技師	1人
保健師	0人	0人	0.0人	視能訓練士	7人	その他	0人
助産師	19人	2人	21.0人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧	0人
看護師	553人	47人	600.0人	臨床工学技士	9人	医療社会事業従事者	3人
准看護師	0人	0人	0.0人	栄養士	0人	その他の技術員	3人
歯科衛生士	1人	1人	2.0人	歯科技工士	1人	事務職員	50人
管理栄養士	5人	4.7人	9.7人	診療放射線技師	27人	その他の職員	23人

- (注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数  
歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	503.5人	7.3人	510.9人
1日当たり平均外来患者数	1,202.2人	46.6人	1,248.8人
1日当たり平均調剤数	1,054.50剤		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者数延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。



(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
<sup>31</sup> リン-磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変非侵略的診断	0人
樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法	11人
抗悪性腫瘍剤感受性検査(HDRA法又はCT-DST法)	103人
超音波骨折治療法	0人
隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子検査	1人
腹腔鏡下スリーブ状胃切除術	1人
内視鏡的大腸粘膜下層剥離術	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第二百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

### 高度の医療の提供の実績

#### 2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
経皮的骨形成術	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

## (様式第10)

## 高度の医療の提供の実績

## 3 その他の高度の医療

医療技術名	不整脈疾患の遺伝子診断	取扱患者数	200人
当該医療技術の概要(循環器内科)			
DNAシーケンサーを用いて、ブルガタ症候群、ARVCなどの遺伝子診断を行っており、現在では全国各地から診断依頼がある。			
医療技術名	内視鏡検査におけるCO2ガスの使用	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要(消化器内科)			
内視鏡検査は時に長時間となり、内視鏡視野確保のための送気により過度に空気を腸管内に送り込むことがある。そういった状態になると患者は腹痛などを訴え、急性腹症様の症状を来すことがある。患者の苦痛緩和目的に送気時に空気ではなくCO2ガスの使用を行い安全に検査をすすめられる。			
医療技術名	炎症性腸疾患におけるマイクロRNAの解析	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要(消化器内科)			
炎症性腸疾患の上皮にターゲットを絞って、マイクロRNAを解析することにより、重症度など疾患表現型との関連、薬物治療効果の予測への応用を試みる。			
医療技術名	大腸腫瘍性疾患に対する大腸粘膜下層剥離術の施行	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要(消化器内科)			
早期大腸癌のうち従来のスネアEMRでは一括切除困難な20mm以上のもの、腺腫の場合は局注にて挙上不良のもの、またはEMR後遺残もしくは再発したもので再EMRでは切除困難な10mm以上の病変を対象とした内視鏡治療技術である。			
医療技術名	炎症性腸疾患におけるMRP4遺伝子多型の解析	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要(消化器内科)			
炎症性腸疾患に使用する免疫抑制剤の作用、副作用にはかなりの個人差が存在する。MRP4遺伝子は薬剤の代謝に関与しており、これを解析することで癌化や炎症との関わりを明らかにする。			
医療技術名	難治性クローン病に対するタクロリムス投与の検討について	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(消化器内科)			
抗TNF $\alpha$ 抗体の治療に抵抗となった難治性クローン病患者に対し、すでに潰瘍性大腸炎患者では保険適応として使用されている免疫抑制剤タクロリムスを使用し、難治性クローン病患者の新たな治療法となりうるかどうか検討する。			
医療技術名	膵石に対する体外式衝撃波結石破碎療法	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(消化器内科)			
難治性疾患である慢性膵炎の合併症である膵石症は鎮痛剤の効果のない頑固な疼痛を有することが多く、十分な治療法がない。近年比較的低侵襲な膵石治療法であるESWLが、治療法の一つとして報告されつつあり、当院でもその効果を検討する。			
医療技術名	炎症性腸疾患患者のインフリキシマブ二次無効における抗インフリキシマブ抗体測定による治療方針決定の検討	取扱患者数	75人
当該医療技術の概要(消化器内科)			
抗TNF抗体製剤のインフリキシマブは寛解維持にも有効であることが明らかとなったが、長期投与中に二次無効となる症例があることが報告されるようになった。その原因のひとつとして、抗インフリキシマブ抗体の生成が言われるようになった。抗インフリキシマブ抗体の有無と治療効果についての検討と、治療変更の必要性についての検討を行う。			
医療技術名	炎症性腸疾患患者におけるチオプリン体代謝酵素MRP4/TPMT/Itpase遺伝子多型におけるアザチオプリン/6-メルカプトプリン投与方法の検討	取扱患者数	250人
当該医療技術の概要(消化器内科)			
炎症性腸疾患にアザチオプリン/6-メルカプトプリンが保険適応となったが、欧米人と比較して日本人には副作用である白血球減少が多いことが問題となっている。その原因としてチオプリン体代謝酵素MRP4/TPMT/ItpaseのSNPであることを明らかにしている。外来業務においてSNPの有無を迅速に判断し副作用出現の予測を行えるかどうかを検討する。			

医療技術名	慢性C型肝炎患者におけるIL-28遺伝子多型の検討	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要(消化器内科)			
慢性C型肝炎の治療において、IFN治療に抵抗する要因として慢性C型肝炎患者のIL28B近傍の遺伝子多型(rs12979860, rs8099917)が関与しているという報告が注目を集めている。本研究では、IFN治療を行うHCV患者にたいしIL-28遺伝子多型をdirect sequence法、Taqman PCR法にて検索、IFN治療抵抗性の要因となっているかを検討する。			
医療技術名	炎症性腸疾患における便中CHI3L1濃度の活動性指標としての有用性の検討	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要(消化器内科)			
IBDの活動期および寛解期における便中CHI3L1濃度を測定し、疾患活動性と相関するかどうかを検討する。			
医療技術名	脂肪肝の改善を併用した慢性C型肝炎治療の成績向上の試み	取扱患者数	40人
当該医療技術の概要(消化器内科)			
C型肝炎治療はインターフェロン+リバビリンが主流となっているが、効果は50%にとどまる。C型肝炎患者では脂肪肝も合併しており、脂肪肝に対する治療を併用することでC型肝炎自体の治療効果が改善するかについて検討する。			
医療技術名	十二指腸粘膜上皮におけるHCVウイルスタンパクの発現	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(消化器内科)			
慢性C型肝炎患者の小腸粘膜上皮にHCVウイルス非構造タンパク(NS3, NS5A)の発現が認められ、LVP(Lipo-viro-particle)を産生するとの報告がある。小腸粘膜上皮におけるHCVウイルスタンパクの発現がIFN難治要因となりうるという仮説のもと、十二指腸粘膜より内視鏡生検を行い、十二指腸粘膜上皮におけるHCVウイルスタンパクの発現を免疫染色法で解析する。			
医療技術名	閉塞性黄疸に対する逆流防止弁付きチューブステントの有用性について	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(消化器内科)			
膵頭部癌、胆道癌などが原因の閉塞性黄疸は、依然予後不良の疾患である。手術加療が不能な場合、黄疸の解除には金属ステントもしくはプラスチックチューブステントを使用する。一旦、金属ステントを留置すると抜去は困難な場合が多く、早期に閉塞を来した症例は頻回の内視鏡的処置が必要となりQOLの低下を来す。また、金属ステント挿入例では放射線治療の併用が合併症増加の懸念から困難となる。一方、プラスチックチューブステントは一般的には狭窄部を越えて十二指腸まで留置するため食物残渣が詰まることにより早期の閉塞を来す。我々は高密度ポリエチレン製の薄膜チューブを市販のTannenbaum型プラスチックチューブステントに取り付けることにより逆流防止弁を作製。逆流防止弁付きプラスチックチューブステントを用い長期開存を得ることを目的とした。			
医療技術名	間接カロリーメトリーによる炎症性腸疾患の管理	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要(消化器内科)			
炎症性腸疾患では、腸の潰瘍やびらんから出血、蛋白漏出をきたし、食事摂取不能や消化吸収障害なども加わり、栄養障害をきたす。高カロリー輸液や経腸栄養剤による栄養療法は、栄養管理として有効であるのみならず、特にクローン病ではprimary therapyとして位置づけられている。本法による安静時エネルギー消費量、呼吸商の測定は動的な栄養評価を可能にするものであり、栄養剤の種類や量の選択、また栄養療法の効果判定に有効である。			
医療技術名	サイトカイン測定による急性膵炎、慢性膵炎重症度の判定	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要(消化器内科)			
膵炎の炎症過程においては各種サイトカインが関与している。特に急性膵炎の重症化や多臓器障害への進展には炎症性サイトカインであるTNF, IL-6, IL-8が、また慢性膵炎ではその病態の大きな特徴である線維化にTGFb, PDGF, FGF, IL-1b等が関与していると考えられる。我々はこのサイトカインが、急性膵炎の重症度や慢性膵炎の線維化の指標の一つになると考え、これらサイトカインの血中レベルを測定して急性膵炎の重症度や慢性膵炎の線維化の判定を行い、さらに病態解析を行う。			
医療技術名	炎症性腸疾患における関連遺伝子の検討	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要(消化器内科)			
原因不明の炎症性腸疾患に関連遺伝子をいくつか検討することで、日本人の健常人との差、あるいは潰瘍性大腸炎とクローン病の特異的のマーカ、さらに重症度の違いなどを検討し診療への応用を行う。			
医療技術名	消化管上皮におけるマイクロRNAの網羅的解析	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要(消化器内科)			
消化管上皮では様々なマイクロRNAが存在し、分化に応じて発現が異なる。これを網羅的に解析することで癌化や炎症との関わりを明らかにする。			

医療技術名	日本国内における初発未治療の慢性期慢性骨髄性白血病(CML-CP)を対象とした観察研究	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(血液内科)			
わが国における初発未治療の慢性期慢性骨髄性白血病(CML-CP)患者を対象とした前向き観察研究を行い、CML治療の全体像と治療成績を把握する。また、微小残存病変を国際標準法であるQRT-PCR法で測定し海外データとの比較を行うとともに、初診時の予後因子であるSokal score、イマチニブ/2nd TKI血漿中濃度、BCR-ABL遺伝子変異などが各治療法別の予後へ及ぼす影響を評価することを目的とする。			
医療技術名	成人core binding factor 急性骨髄性白血病に対するシタラビン大量療法でのKIT遺伝子型別反応性を評価する臨床第IV相試験	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(血液内科)			
成人core binding factor 急性骨髄性白血病症例を対象に、寛解後療法としてシタラビン大量療法を行った際のKIT遺伝子変異の有無による治療反応性の違いを検討し、シタラビン大量療法の最適な使用法を明らかにすることを目的とする。			
医療技術名	FLT3/ITD変異陽性成人急性骨髄性白血病を対象とした同種造血幹細胞移植療法の有効性と安全性に関する臨床第II相試験	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(血液内科)			
成人core binding factor急性骨髄性白血病・急性前骨髄球性白血病を除く成人急性骨髄性白血病でFLT3 internal tandem duplication (FLT3/ITD) 変異を有する症例を対象に、第一寛解期での同種造血幹細胞移植療法の有効性と安全性を評価することを目的とする。			
医療技術名	染色体・遺伝子変異が成人急性骨髄性白血病の予後に及ぼす影響に関する観察研究実施計画	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要(血液内科)			
染色体異常および急性骨髄性白血病(AML)の発症・進展・予後に影響を及ぼす可能性が示唆されている遺伝子変異を網羅的に解析することにより、これらが単独または複合的に成人AMLの予後に与える影響を検討し、分子病態に基づく個別化治療を行う上での層別化因子となりうる分子病型を明らかにする。			
医療技術名	糖尿病かんやにおける持続血糖測定と糖尿病性合併症との関連の解明	取扱患者数	80人
当該医療技術の概要(糖尿病内分泌内科)			
血糖コントロール不良状態では、糖尿病性血管合併症(網膜症・腎症・神経障害・動脈硬化症)の発症率を増悪させることが証明されている。また食後の急峻な血糖上昇は動脈硬化・動脈硬化性疾患の独立した危険因子として確立されている。そのため、血糖日内変動の把握の重要性が提唱されている。しかし、これまで血糖モニターの方法として最も汎用されているのは1日数回程度の自己血糖測定であるが、24時間の血糖コントロールの全容を把握し得なかった。近年、米国で24時間連続的に5分毎の平均血糖値を測定する持続血糖測定器が開発され、日中・夜間を問わず血糖コントロールの全容を把握することが可能となった。持続血糖測定と糖尿病性合併症との関連を検討し、糖尿病性血管合併症の発症阻止のための新たな治療戦略を構築することが可能となる。			
医療技術名	Congenital dyserythropoietic anemia(CDA)の効果的診断法の確立に関する研究	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(小児科)			
稀少疾患であるCDAの実情を把握し、効果的診断法を確立する。 当院における該当症例に対し、遺伝子診断などをおこなう。			
医療技術名	先天性甲状腺機能低下症の遺伝子解析	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要(小児科)			
新生児マススクリーニングで診断さえる、先天性甲状腺機能低下症の原因遺伝子(DUOX2, TSHR, TPO, NIS, THRB, DEHAL1)の遺伝子変異の同定を行い診断する。			
医療技術名	無拘束機器(SD-101)による睡眠時無呼吸症候群の診断	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要(精神科神経科)			
精神疾患を有する場合、これまでの計測機器では測定が困難であった。無拘束の本測定機器を使用することにより、精神疾患においても測定可能となる。			

医療技術名	高照度光療法	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要(精神科神経科)			
<p>この治療法は、高照度光によって人の生体リズムの位相を人工的に変化させることによって、リズム異常により生じている様々な疾患の治療を行おうとするものである。臨床応用可能な疾患としては、生体リズム異常が原因と考えられている睡眠覚醒リズム障害(睡眠相前進症候群、睡眠相後退症候群、非24時間睡眠覚醒障害)、季節性感情障害、痴呆、せん妄、登校拒否などの精神疾患がある。尚、現在のところ生体リズム異常には薬物療法は有効ではなく、この方法が唯一の治療法である。前年度は、睡眠相後退症候群、季節性感情障害、非季節性感情障害、痴呆などの患者8名に施行し、治療効果を得た。主に朝方、1~2時間の高照度光を浴びる。効果はアクチウオッチなどで評価。睡眠障害、特に概日睡眠、覚醒リズム障害に対して有効とされる治療法。侵襲性が極めて低いことや(対象が低い)、季節型うつ病に有効とされる。</p>			
医療技術名	難治性疼痛に対する電気けいれん療法(ECT)	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要(精神科神経科)			
<p>通常の鎮痛薬、麻薬系の薬剤、神経ブロック療法などが奏功しない視床の出血、梗塞後に生ずる中枢系疼痛や帯状疱疹後神経痛、カウザルギー、反射性交感神経性ジストロフィーなどのニューロパシックペインを持つ難治性疼痛患者を対象として、ECTによる治療を行う。MRSおよびSPECTを用い難治性疼痛の病態生理とECTの治療機転の解明を行う。ECTは、brief-pulse square waveを発生する機器を用いる。当該研究は、難治性疼痛の治療面における発展に寄与するにみに留まらず、難治性疼痛の病態生理を解明するための新たな知見をもたらすことが期待される。</p>			
医療技術名	ケラチン病の遺伝子診断	取扱患者数	5-10人
当該医療技術の概要(皮膚科)			
先天性表皮水泡性の遺伝子診断を行う。			
医療技術名	自己免疫性水疱症に対するガンマグロブリン大量静注療法における抑制性細胞の関与に関する研究	取扱患者数	2-6人
当該医療技術の概要(皮膚科)			
天疱瘡 ならびに類天疱瘡患者の免疫グロブリン大量療法で、抑制性B細胞の関与を検討する。			
医療技術名	消化器癌患者輸血後の予後とErythropoietinを用いた自己血輸血	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要(消化器、乳腺・一般外科)			
<p>消化器癌手術において輸血(同種血)を行うと、肝炎、エイズ、HTLV等の感染症は言うに及ばず、本来宿主がもっている抗腫瘍性の免疫能も抑制をうけることをわれわれは実証しているが、実際に胃癌術後の予後も憎悪する。よって解析の反省から術前Erythropoietinを投与し、造血を計り貯血法、稀釈法による自己血輸血を数年前から開発し、予後及びQOLの向上をはかっている。本来進行癌の患者は軽度貧血を伴うものが多いが、Erythropoietin 併用により、適応の拡大が可能となった。</p>			
医療技術名	腹仙骨式直腸切除術	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要(消化器、乳腺・一般外科)			
<p>直腸悪性腫瘍のうち、肛門括約筋近傍の腫瘍に対し肛門括約筋を温存しつつ、腫瘍切除を行うことは、排便機能上大変重要である。仙骨側よりアプローチし、直視下に腫瘍と括約筋間の安全な距離を保ちつつ、直腸を切除し、括約筋を温存する術式で、より安全な括約筋温存手術である。</p>			
医療技術名	血液浄化療法による敗血症治療	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要(消化器、乳腺・一般外科)			
<p>敗血症はさまざまな治療法が進んだ中でも、未だに多臓器不全へ進む際の大きく重大な合併症として予後も悪い。我々はグラム陰性菌細胞壁から出る内毒素を除去する体外循環材料を開発してきた。(PMX:ポリミキシン固定化繊維カラム)このカラムをEndotoxemia症例に対し、直接血液灌流法(DHP)によって血中のエンドキシンを除去し、重症の敗血症や臓器不全を伴う敗血症治療に対応している。今までは血中のエンドキシンレベルを下げられ、循環動態の改善を確認している。さらに血中のエンドキシン濃度の測定、およびグラム陽性菌としてブドウ球菌(MRSA)が出すToxic Shock Syndrome Toxin-1(TSST-1)の測定法も開発し、血液中の菌を培養して診断するまでもなく、迅速に血中の菌由来毒素を測定して診断することも実用化している。これらの技術により、より早期の敗血症(G(-)、G(+)、真菌血症)診断とエンドキシン血症に対する治療がさらに向上することが期待される。</p>			
医療技術名	骨盤腔腫瘍に対するIVMR下マイクロ波凝固療法	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要(消化器、乳腺・一般外科)			
<p>切除困難な骨盤腫瘍に対しては、通常行なわれる超音波ガイドは、骨の近傍であり使用困難の部位が多く、IVMRによるナビゲーションを行ないつつ、マイクロ波凝固療法を行なうことで、安全確実な治療効果が期待出来る方法として注目をあびている。</p>			

医療技術名	体外循環による肝腫瘍切除術	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要(消化器、乳腺・一般外科)			
肝腫瘍の肝静脈および下大静脈に浸潤した例では、切除不能であるが体外循環下に肝腫瘍を切除できる。体外循環は門脈と下大静脈とBiopumpを使用して腋窩静脈にBy-passして無血下に肝切除術を施行する方法で、良結果が得られている。			
医療技術名	胃癌における術中温熱化学療法	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要(消化器、乳腺・一般外科)			
胃癌の再発形式である腹膜播種に対して、現在まで有効な治療法がないのが現状である。我々は胃癌に対して開腹し、胃切除術を施行した後CDDP-5-FU、MMCを混入した生理食塩水を43℃に加温し、腹腔内を還流することにより腹膜播種に対する予防、治療を行っている。			
医療技術名	MR環境下肝悪性腫瘍マイクロ波凝固療法	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要(消化器、乳腺・一般外科)			
肝悪性腫瘍マイクロ波凝固療法は、超音波ガイド下にはすでに行われている治療法であるが、超音波では検出不能の部位が多く、また、治療途中の画像が確認できないことや、2回目以降の穿刺ができないことなど多くの問題点が挙げられる。MR環境下では、癌の局在に関係なく画像として描出可能であり、治療途中の腫瘍内部の変化も観察可能で、複数回の穿刺も容易であることから、完全な医療が可能になると考えられる。当院に導入されたオープンMR装置は、現在では、本手技を可能にする唯一の装置であり、MR環境下でのリアルタイム画像を利用した本手技は、今後腫瘍の完全な治療をもたらす手技として期待されるものである。			
医療技術名	膵疾患に対する腹腔鏡下膵切除術(膵生検を含む)	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要(消化器、乳腺・一般外科)			
従来から膵病変は確定診断が困難であったり、手術においても過大な侵襲を伴う治療法が行われてきた。しかし、腹腔鏡下手術の手法向上とともに膵疾患に対しても低侵襲で小切開創による腹腔鏡下手術が応用されてきている。当科では、慢性膵炎や診断困難な膵腫瘍に対し腹腔鏡下生検で確定診断を得てきたほか、膵腫瘍や膵浸潤の他臓器腫瘍に対し腹腔鏡下膵切除(膵尾部切除)で良好な結果を得てきた。手技に熟練を要すが、開腹手術と変わらぬ診断・治療成績が得られることから、高度な医療技術として普及することが期待できる。			
医療技術名	高リスク症例に対するオフポンプ法・両側内胸部動脈バイパス・スケルトナイズ法によるグラフト採取(冠動脈バイパス術)	取扱患者数	100人
当該医療技術の概要(心臓血管外科)			
オフポンプ法は人工心肺を用いた従来の冠動脈バイパス術と比較して合併症発生率・手術死亡率が低い。また両側内胸部動脈を用いたバイパスは最良の生命予後を提供することが示されてきた。さらに重要な点は、これらの利点が、近年我々が遭遇する患者の大部分を占める高リスク症例でより早期からより著明となることである。しかし欧米での普及率はオフポンプ法20%・両側内胸部動脈4~10%と低い。理由は、術後胸骨感染と右内胸部動脈の使用法に対する懸念が考えられる。スケルトナイズ法はこれらの懸念を解決し得るが、高度な技術が要求されるため、容易ではない。我々は、過去10年間に単独冠動脈バイパス術を約1000例行い、術前心停止症例6例を除き全例オフポンプ法で完遂、スケルトナイズ法を全例に、両側内胸部動脈を約60%の症例に用いてきた。その成果は、平成22年度だけで主要ジャーナルに16編採択された。			
医療技術名	小型トランスデューサーを備えた高周波超音波装置(冠動脈バイパス)	取扱患者数	100人
当該医療技術の概要(心臓血管外科)			
冠動脈バイパス術は強力な生命予後改善・心筋梗塞予防効果を有することが示されてきた。その効果は、バイパス血管が良好に開存している限り保証される。高い開存率を維持するために良質なバイパス血管の確保や、熟練した外科医の技術が不可欠となるのは言うまでもないが、加えて、吻合を行う標的冠動脈の正確な同定と適切な吻合部位の選択も同様に重要な要素である。現在、バイパス血流の有無、吻合の質の評価方法は冠動脈造影がゴールドスタンダードだが、術中の冠動脈造影は現実的でなく、外科医は吻合の際の感覚や自らの経験を頼りに手術の出来を判断せざるを得ないのが実情であった。我々は平成22年度から術野で使用可能な小型トランスデューサーを備えた高周波超音波装置を臨床応用し、標的冠動脈の同定・至適吻合部位の選択・吻合部位の形態評価などに使用してきた。国内のごく少数の施設でのみ臨床使用されており、先駆的立場で我々の経験を、国内の主要学会で発表している。			
医療技術名	小血管画像理データ処理システムを用いた冠動脈バイパスグラフトの術中評価	取扱患者数	100人
当該医療技術の概要(心臓血管外科)			
我々は、術中に肉眼的にバイパスグラフトやその他の血管系の評価をする新しい装置を臨床応用しており、より質の高い手術を提供する一助となっている。この装置は、造影剤としてICG(インドシアニングリーン)を用い、これにシステム本機から出る近赤外線当たって、血管中に流れるICGを蛍光発色させ、システムのアームヘッドについて特殊CCDカメラがそれを捉え動画として本機に付属したモニターに映し出すことで、血流の有無を確認することが出来る。			
医療技術名	僧帽弁閉鎖不全症に対するバタフライ切除	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要(心臓血管外科)			
僧帽弁後尖の変性病変に対してこれまでに様々な切除方法が提案・議論されてきた。我々は、従来の切除方法にはない新しい特徴を有する「バタフライ切除」を提唱・臨床応用してきた。23年度の米国胸部外科学会においてこれまでの臨床成果を口頭発表し、その内容は当分野の主要ジャーナルに採択された。			



医療技術名	弓部大動脈置換術の末梢側吻合における独自の工夫による視野展開	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要(心臓血管外科)			
弓部大動脈置換術の大動脈末梢側吻合は視野が深く狭いため技術的に困難な手技のひとつである。この末梢側吻合を確実に行うことが出血の少ない短時間の手術、つまり患者負担の少ない手術に必須である。我々は、既製のデバイスを独自の工夫で用いることでより良好な視野を得、確実な末梢側吻合を行い、安定した良好な成績を残してきた。その成果を国内の主要学会で発表を行い、定評を得ている。			
医療技術名	関節軟骨欠損に対する軟骨移植術	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要(整形外科)			
関節軟骨損傷に対する治療は、整形外科領域の古くからのテーマであるが、線維性軟骨で修復する方法は報告されているが損傷された関節軟骨を硝子軟骨で修復することは困難であった。1993年我々により最初に報告された複数の自家骨軟骨片のプレスフィット移植(モザイクプラスティ)により関節軟骨の硝子様軟骨での再生がかなり可能になってきた。関節軟骨修復に対するモザイクプラスティは、膝関節の大腿骨顆部辺縁部の比較的荷重のかからない部位から採取した複数の小さな円柱状骨軟骨片により、荷重部位の軟骨欠損を修復する方法である。軟骨採取用の手術器具がすでに市販されていてこれを用いて膝関節を中心に関節軟骨欠損の治療を行っている。本法を関節鏡視下に行うことにより患者さんに侵襲のより小さい手術を工夫して試みている。			
医療技術名	コンピュータ・ナビゲーションを用いた脊椎手術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要(整形外科)			
脊椎固定術において、脊髄・椎骨動脈・その他の脊椎周囲臓器を損傷することなく骨固定スクリューを挿入する必要がある場合が多くある。従来の確認方法は術中X線撮影やX線透視で挿入位置や方向を確認するものであるが、このたび新しく、コンピュータ・ナビゲーションによる手術支援装置を用いることで、固定術のインプラント挿入に起因する合併症をより有意に減らすことが可能となっている。術前CT画像を元にしたナビゲーションシステムを用いて、正確さと精密さを要求される頸椎椎弓根スクリューの挿入もより安全に行えるようになった。適応は主として頸椎胸椎の金属インプラントを用いた固定術で、6例に合併症無く安全な手技を施行することができた。今後さらなる応用が見込まれる新技術である。			
医療技術名	MIB-1を用いた脳腫瘍増殖能の計測	取扱患者数	34人
当該医療技術の概要(脳神経外科)			
腫瘍の増殖速度を知ることは、患者の予後を推定し治療法を決定する上で重要な役割をはたすと考えられる。主要な増殖脳測定のため、さまざまな方法が考案されているが、従来用いられていた方法はいずれも通常ホルマリン固定パラフィン包埋標本で簡便に行うには多少の問題点があった。最近、通常の手術標本でも増殖中の細胞に出現するKi-67 antigenを染色可能なMIB-1抗体が開発され、比較的容易に腫瘍の増殖能を知ることができるようになった。これを用いて脳腫瘍の診断、予後の予測をおこない、治療法の選択に反映させている。			
医療技術名	MRSによる認知症の早期診断と知能評価	取扱患者数	57人
当該医療技術の概要(脳神経外科)			
社会の高齢化に伴い認知症患者の増加が問題となっているが、従来の医療技術ではアルツハイマー病などの原発性変性痴呆患者の早期診断や、その病状の客観的な評価は困難と言われている。当科では以前より通常のMR画像装置をもちいて、脳のN=acetyl aspartate (NAA)の半定量を行ってきた。N=acetyl aspartate (NAA)はproton MRSにより測定可能であるが、その代謝経路や生物学的意義は今のところ明らかでない。この物質は神経細胞にだけ多く含まれており、ある程度の相関関係が認められており、またニューロトランスミッターの前駆体と推測されている。そこで、健常者と認知症患者のNAAを測定し比較することにより、1)アルツハイマー病の早期診断法としての有用性、2)脳の活動性の客観的指標としての有用性、につき検討してきた。この結果、原発性変性痴呆患者では健常者に比べ有意にNAAの低下を認めた。また、正常圧水頭症では痴呆症状があるにもかかわらず有意なNAAの低下は認められず、手術により痴呆症状の改善を認めている。以上のことから、NAAの測定を、原発性変性痴呆症の早期診断や予後推測に用いた。今後はさらに、原発性変性痴呆症の知的レベルや進行度とNAA量との比較や可塑性についても検討する。			
医療技術名	覚醒下手術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要(脳神経外科)			
運動や言語、記憶など高次脳機能を司る領域付近に発生した病変を摘出する際に上記機能障害を最小限とし、機能を温存するために摘出術中に麻酔から覚醒させ機能障害の出現を確認しながら病変を最大限摘出することを可能とする記述である。実施に際してはSEP、MEP、脳波などを活用し各種モニターを使用することで安全に行う。			
医療技術名	術中ICGビデオアンギオグラフィーによる血管、血流評価	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要(脳神経外科)			
肝臓、網膜の血管描出に使われるインドネシアイングリーンを使用し、手術顕微鏡に搭載した特殊フィルターを通して観察することで、脳および脊髄血管手術の際に、簡便かつ安全に術中血管撮影を行い対象血管病変の根治性の向上と手術安全性をえられる手技である。			
医療技術名	液体塞栓物質による頭蓋内、脊髄病変塞栓術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要(脳神経外科)			
脳動静脈奇形、脊髄動静脈奇形、硬膜動静脈瘻などの病変に対して流入血管や病変自体を血管内手術手技利用し、液体塞栓物質によって塞栓させることでその後の外科手術をより安全に行える。			

医療技術名	悪性神経膠腫に対するテモゾロミド治療効果寄与因子の検討	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要(脳神経外科)			
手術中に得られた組織からMGMT因子を測定し、腫瘍に対する抗がん剤の感受性を知ることが出来る。MGMT陽性、陰性によりテモゾロミドの効果が大きく異なるため、その結果を基に選択的に使用する。			
医療技術名	体外受精胚移植法による難治性不妊症の治療	取扱患者数	381人
当該医療技術の概要(母子・女性診療科)			
卵管性不妊、重症子宮内膜症、免疫性不妊、男性因子による不妊などの難治性不妊に対しては、従来の不妊症治療法では非常に成績が悪く、これらに対して体外受精胚移植法を行うことにより格段に治療成績が改善した。本治療は、卵巣刺激を行った後、経膈超音波断層法ガイド下に採卵を行い、媒精、胚培養さらに、子宮腔内に胚を移植する治療法である。			
医療技術名	無心体双胎妊娠に対する胎内治療	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(母子・女性診療科)			
無心体双胎妊娠に対して、ラジオ波熱凝固を用いた血流遮断術を行うことにより、生存時の心不全を改善することが可能となる。			
医療技術名	過多月経患者に対する低侵襲治療	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(母子・女性診療科)			
合併症等により従来の治療法である子宮全摘手術などが行えない過多月経患者に対して、マイクロ波子宮内膜アブレーション(MEA)による低侵襲治療を提供する。本法は、現在経腹エコーガイド下に施行されているが、将来MRIガイド下で行うことにより、どんな症例でも確実に施行でき、また熱損傷を最小限に抑えることが可能となるであろう。			
医療技術名	椎間板性腰痛に対する高周波熱凝固法	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要(ペインクリニック科)			
難治性の椎間板腰痛に対し、X線透視下に椎間板内に専用の電極を挿入し、椎間板後部に入り込んだ神経を、高周波熱凝固法、パルス高周波法で治療し、鎮痛を図る。			
医療技術名	難治性疼痛患者に対するRACZカテーテル治療	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要(ペインクリニック科)			
硬膜外腔、神経根の癒着が原因となっている難治性の脊髄手術後疼痛に対し、X線透視下に専用のスプリングコイルカテーテルを仙骨裂孔から挿入し、化学的神経剥離術を行うことで、鎮痛を図る。			
医療技術名	核磁気共鳴スペクトロスコピーを用いた機能的脳機能画像評価	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要(ペインクリニック科)			
核磁気共鳴スペクトロスコピーを用いて、〇〇などの脳内代謝物質を測定し、機能的脳機能画像評価を行う。			
医療技術名	敗血症性DICによる多臓器障害の凝固学的検討と血液浄化法の有効性の検討	取扱患者数	29人
当該医療技術の概要(救急・集中治療部)			
敗血症は高頻度にDICを併発し、その場合多臓器障害となることが知られている。この病態において、敗血症による凝固活性化によるDICと、これに伴う微小循環障害、さらに高サイトカインあるいはエンドトキシンにより多臓器障害が発症するものと考えられている。よって、この病態に対する治療として、敗血症の原因治療に加え、嚴重なDICの管理と高サイトカインやエンドトキシンに対する対策が必要と思われる。そのためには、迅速かつ詳細な凝固学的検査とサイトカイン除去法が必須である。我々は、本院中央検査部とともにLPIA法による測定法の開発と設定を行い、またサイトカインあるいはエンドトキシン除去に対し、積極的に持続的血液濾過法やエンドトキシン吸着法、さらに我々開発したPlasma Filtration with Dialysis(PFD)療法を施行し、的確な診断と病態解析、およびその治療を行い、世界標準データである院内死亡率49.6%に対し、38.9%と優秀な生存率を示している。			
医療技術名	経鼻内視鏡を用いた直接胆道鏡甲オーバーチューブの使用	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要(光学医療診療部)			
胆管を直接内視鏡を観察することは胆道疾患の診断と治療に有用である。経鼻内視鏡は胆道内に挿入可能な細径内視鏡であるが、口腔からのアプローチでは挿入不可能である。新しいオーバーチューブを用いることでこの挿入を可能にした。			
医療技術名	悪性肝門部狭窄に対するチューブステートの意図的胆管内留置	取扱患者数	14人
当該医療技術の概要(光学医療診療部)			
胆管がんなどによる肝門部狭窄に対して様々なステント留置が行われるが、チューブ閉塞感染等が問題である。先端を胆管内の乳頭部奥に留置することで感染・閉塞が生じにくくなる。			

医療技術名	クローン病狭窄部へのステロイド局注有用性の検討	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要(光学医療診療部)			
クローン病腸管合併症による狭窄を解除するため内視鏡的バルーン拡張術を行っているが、再狭窄のため繰り返し拡張術が必要となる。局所にステロイドを投与することで線維化を抑え再狭窄予防につながる。			
医療技術名	悪性リンパ腫におけるEBウイルス同定	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要(病理部)			
In situ hybridizationによる造血器疾患(悪性リンパ腫)におけるEBウイルスゲノムの検出を行うことにより、診断を確定する。			
医療技術名	子宮頸癌パピローマウイルス部In situ hybridizationによるtyping	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要(病理部)			
子宮頸部病変の病理検体のParaffin sectionを用いて、パピローマウイルスのtypingをIn situ hybridizationで行い、癌との関連の深いウイルスsubtypeを同定している。			
医療技術名	サイトメガロウイルス感染症のIn situ hybridizationによる固定	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要(病理部)			
日和見感染症の関連でパラフィンブロックを用いてサイトメガロウイルスの固定をする。悪性のホジキンリンパ腫と同ウイルスのリンパ節感染は通常の病理標本での鑑別が困難であるが、この確定診断に極めて有用である。			
医療技術名	悪性リンパ腫(B細胞型)の $\kappa$ 、 $\lambda$ 鎖のIn situ hybridizationによる固定	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要(病理部)			
B細胞性リンパ腫の免疫グロブリン短鎖のIn situ hybridizationによる固定を行い診断を確定する。良性の炎症性疾患との区別に有効である。			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

## 高度の医療の提供の実績

## 4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	29人	・膿疱性乾癬	8人
・多発性硬化症	22人	・広範脊柱管狭窄症	16人
・重症筋無力症	32人	・原発性胆汁性肝硬変	39人
・全身性エリテマトーデス	108人	・重症急性膵炎	10人
・スモン	2人	・特発性大腿骨頭壊死症	55人
・再生不良性貧血	21人	・混合性結合組織病	16人
・サルコイドーシス	33人	・原発性免疫不全症候群	0人
・筋萎縮性側索硬化症	14人	・特発性間質性肺炎	6人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	64人	・網膜色素変性症	24人
・特発性血小板減少性紫斑病	46人	・プリオン病	0人
・結節性動脈周囲炎	13人	・肺動脈性肺高血圧症	4人
・潰瘍性大腸炎	358人	・神経線維腫症	10人
・大動脈炎症候群	10人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	10人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	1人
・天疱瘡	19人	・慢性血栓栓性肺高血圧症	1人
・脊髄小脳変性症	25人	・ライゾーム病	4人
・クローン病	150人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	1人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	4人	・脊髄性筋萎縮症	1人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	63人	・球脊髄性筋萎縮症	1人
・アミロイドーシス	6人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	2人
・後縦靭帯骨化症	47人	・肥大型心筋症	1人
・ハンチントン病	1人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	13人	・ミトコンドリア病	6人
・ウェグナー肉芽腫症	3人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	0人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	70人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	5人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	14人	・黄色靭帯骨化症	6人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	0人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	24人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・経皮的骨形成術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	週1回を原則としている
部 検 の 状 況	部検症例数 38例 / 部検率 21.00%

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
先天性QT延長症候群の遺伝的背景に基づく治療指針の検討	堀江 稔	循環器内科	10,500	補委 厚生労働省科学研究費補助金
早期細分極(early repolarization)症候群の病態と遺伝基盤、長期予後に関する研究	堀江 稔	循環器内科	2,000	補委 厚生労働省科学研究費補助金
進行性心臓伝導障害の病態診断と遺伝子基盤に関する研究	堀江 稔	循環器内科	1,500	補委 厚生労働省科学研究費補助金
胎児・新生児期に発症する難治性遺伝性不整脈の実態調査、診断・治療ガイドライン作成並びに生体資料のバンク化	堀江 稔	循環器内科	5,000	補委 厚生労働省科学研究費補助金
QT延長症候群患者における網羅的単一塩基多型解析	堀江 稔	循環器内科	1,400	補委 文部科学省科学研究費補助金
ヒトiPS細胞由来心筋樹立による家族性突然死症候群の病態解明と治療法の確立	堀江 稔	循環器内科	1,500	補委 日本循環器学会
難治性心房細動に対するカテーテル治療の評価および再発予測因子に関する研究	伊藤 誠	循環器内科	910	補委 文部科学省科学研究費補助金
多階層データに基づく心臓電気現象の統合的機能シミュレーション	芦原 貴司	循環器内科	2,600	補委 文部科学省科学研究費補助金
ヒト両心房モデル構築を基盤とした慢性心房細動とその治療に関するインシリコ研究	芦原 貴司	循環器内科	910	補委 文部科学省科学研究費補助金
先天性QT延長症候群の遺伝的背景に基づく治療指針の検討	伊藤 英樹	循環器内科	3,000	補委 厚生労働省科学研究費補助金
潜在性突然死症候群の顕在化に関与する遺伝的背景と分子病態の解明	伊藤 英樹	循環器内科	1,430	補委 文部科学省科学研究費補助金
突発性間質性肺炎CT画像の自動解析法の開発とその検証	中野 恭幸	呼吸器内科	1,300	補委 文部科学省科学研究費補助金
計算解剖モデルに基づく診断支援	中野 恭幸	呼吸器内科	500	補委 文部科学省科学研究費補助金
Dectin-1を介した樹状細胞制御にもとづく炎症性腸疾患の病態解明と治療薬の開発	藤山 佳秀	消化器内科	1,800	補委 文部科学省科学研究費補助金
大腸筋線維芽細胞由来IL-24を標的とした新たなIBD治療法開発の基礎検討	安藤 朗	消化器内科	1,300	補委 文部科学省科学研究費補助金
小腸粘膜上皮の脂肪酸直接刺激によるクローン病免疫応答異常の解明	辻川 知之	消化器内科	100	補委 文部科学省科学研究費補助金
バクテリアルトランスロケーションにおける神経原性炎症の役割	小泉 祐介	消化器内科	800	補委 文部科学省科学研究費補助金

小計  
17

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
アンチセンスMIF/SPGF複合体による腸炎抑制効果に対する研究	藤山 佳秀	消化器血液内科	4,000	補 委 受託研究費
HIV感染者等保健福祉相談事業	藤山 佳秀	消化器血液内科	1,000	補 委 受託研究費
果糖応答性転写調節因子群の同定、その分子機構と病態的意義	柏木 厚典	糖尿病内分泌内科	1,300	補 委 文部科学省科学研究費補助金
環境応答遺伝子としてのTFAP2Bのメタボリックシンドローム発症における役割	前川 聡	糖尿病内分泌内科	1,100	補 委 文部科学省科学研究費補助金
ヒト肝SREBP-1c遺伝子発現を調節する新しい核蛋白の同定とその機能解析	西尾 善彦	糖尿病内分泌内科	700	補 委 文部科学省科学研究費補助金
腎尿細管細胞オートファジーを標的とした慢性腎臓病におけるメカニズムの解明	宇津 貴	腎臓内科	1,900	補 委 文部科学省科学研究費補助金
新規糖尿病性腎症治療標的分子としてのuPARの基礎的・臨床的意義の解明	荒木 信一	腎臓内科	1,000	補 委 文部科学省科学研究費補助金
有痛性糖尿病神経障害発症における中枢神経系疼痛抑制経路の役割	真田 充	神経内科	1,900	補 委 文部科学省科学研究費補助金
神経細胞特異的ターゲティングHDAdを用いた神経因性疼痛への遺伝子治療法の開発	寺島 智也	神経内科	950	補 委 文部科学省科学研究費補助金
PGC-1 $\beta$ を介した翻訳後修飾による新たな果糖応答性肝脂質合成調節機構の解明	永井 義夫	糖尿病内分泌内科	950	補 委 文部科学省科学研究費補助金
新規ミトコンドリア機能調節因子Aの発現低下と糖尿病発症の関係	森野 勝太郎	糖尿病内分泌内科	1,900	補 委 文部科学省科学研究費補助金
サート1を介した新規インスリン抵抗性治療薬の探索	吉崎 健	糖尿病内分泌内科	1,400	補 委 文部科学省科学研究費補助金
2型糖尿病患者を対象とした血管合併症抑制のための強化療法と従来治療とのランダム化比較試験	前川 聡	糖尿病内分泌内科	2,300	補 委 J-D01T3(糖尿病合併症を抑制するための介入試験)
メタボリック・シンドローム関連疾患における個別化医療の実現(新規2型糖尿病関連遺伝子の同定と機能解析)	前川 聡	糖尿病内分泌内科	1,300	補 委 文部科学省研究振興局長
腎近位尿細管細胞における細胞内浄化機構オートファジーの慢性腎臓病進展機構への関与	久米 真二	腎臓内科	1,500	補 委 CKDアワード研究助成金(アステラス製薬)
腎近位尿細管細胞における細胞内浄化機構オートファジーの制御機構と病態への関与	久米 真二	腎臓内科	500	補 委 分子腎臓フォーラム研究助成金(アステラス製薬)
エイジング、インスリン抵抗性状態の脂肪組織でのオートファジーの役割	吉崎 健	糖尿病内分泌内科	1,000	補 委 第2回日本抗加齢協会
インスリン抵抗性に対する魚食介入の有効性及び分子機構の検討	森野 勝太郎	糖尿病内分泌内科	1,500	補 委 三井生命厚生事業団
魚油・ $\omega$ 3多価不飽和脂肪酸による血管内皮機能改善の分子メカニズムを解明する	森野 勝太郎	糖尿病内分泌内科	500	補 委 財団法人木村記念循環器財団

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
糖尿病患者に対する魚食指導の臨床的意義-アディポネクチンを介したアプローチの試み	森野 勝太郎	糖尿病内分泌内科	1,000	補 財団法人日本糖尿病財団 委
DPP-4阻害薬シタグリプチンの血管内皮機能への影響	吉崎 健	糖尿病内分泌内科	2,000	補 財団法人地域医学研究基金 委
肺癌・食道癌の迅速病態診断系の構築：未病・早期癌検出と悪性度評価による個別化治療	醍醐 弥太郎	腫瘍内科	5,590	補 文部科学省科学研究費補助金 委
がん研究分野の特性等を踏まえた支援活動	醍醐 弥太郎	腫瘍内科	3,000	補 文部科学省科学研究費補助金 委
肺癌の早期診断マーカーの探索と分子標的治療への可能性の検討	高野 淳	腫瘍内科	1,495	補 文部科学省科学研究費補助金 委
Congenital dyserythropoietic anemia (CDA) の効果的診断法の確立に関する研究	多賀 崇	小児科	1,000	補 厚生労働省科学研究費補助金 委
大脳皮質奇形ハムスターを用いたけいれん準備性の発現基盤の解析	高野 知行	小児科	1,560	補 文部科学省科学研究費補助金 委
B5-B細胞の抑制性機能に関する検討	藤本 徳毅	皮膚科	1,300	補 文部科学省科学研究費補助金若手研究(B) 委
リンパ管浮腫に対する細胞移植療法の臨床応用	塩見 尚礼	消化器外科 乳腺・一般外科	1,300	補 文部科学省科学研究費補助金 委
直腸肛門希形マウスを用いた器官培養による分子生物学的解析及び胎仔治療への応用	久保田 良浩	消化器外科 乳腺・一般外科	910	補 文部科学省科学研究費補助金 委
アディポネクチンによる新しい敗血症の治療法の開発	山本 寛	消化器外科 乳腺・一般外科	650	補 文部科学省科学研究費補助金 委
医療資源ベクトル解析法に関する研究	来見 良誠	消化器外科 乳腺・一般外科	1,000	補 文部科学省科学研究費補助金 委
超臨場感遠隔協働のためのインタラクティブ柔軟物シミュレーションと可視触化の研究	来見 良誠	消化器外科 乳腺・一般外科	300	補 文部科学省科学研究費補助金 委
毛髪内微量元素解析を用いた乳癌スクリーニング法に関する研究	張 弘富	消化器外科 乳腺・一般外科	2,470	補 文部科学省科学研究費補助金 委
拡張現実を用いたMR画像支援下内視鏡手術システムの開発	仲 成幸	消化器外科 乳腺・一般外科	2,210	補 文部科学省科学研究費補助金 委
出血性ショック後の循環動態への抹消神経の関与とその制御	赤堀 浩也	消化器外科 乳腺・一般外科	2,860	補 文部科学省科学研究費補助金 委
体腔鏡手術ロボティクス技術の開発研究	谷 徹	消化器外科 乳腺・一般外科	51,436	補 文部科学省 都市エリア産学官 委 連携促進事業

小計  
17



研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
汎用MRを使う生体内構造透視画像下内視鏡手術システムの開発	谷 徹	消化器外科 乳腺・一般外科	68,796	補 独立行政法人科学技術振興機構 委 研究成果最適展開支援事業
マンモグラフィー自動診断アルゴリズムに関する基礎的研究	来見良誠	消化器外科 乳腺・一般外科	4,000	補 (財)立石科学 委 技術振興財団
生活習慣病を合併する病的肥満患者に対する減量手術の費用便益分析	山本 寛	消化器外科 乳腺・一般外科	200	補 文部科学省科学 委 研究費補助金
脊柱靭帯骨化症に関する調査研究	森 幹 士	整形外科	500	補 厚生労働科学研 委 究費補助金
霊長類軟骨欠損モデルに対する骨髄間葉系幹細胞由来軟骨細胞を用いた組織工学的修復の検討	西澤 和也	整形外科	2,000	補 学長裁量経費 委
骨格成長に寄与する新規分子の解明	西村 一郎	整形外科	2,000	補 学長裁量経費 委
未破裂脳動脈瘤の治療の評価技術の開発に関する研究	野崎 和彦	脳神経外科	8,850	補 厚生労働科学研 委 究費補助金
脳動脈瘤発生増大破裂の機構解明と新規治療法の開発	野崎 和彦	脳神経外科	5,980	補 日本学術振興会 委 科学研究費
未破裂脳動脈瘤の核磁気共鳴生体イメージングによる追跡と破裂予測システムの構築	野崎 和彦	脳神経外科	1,000	補 日本学術振興会 委 科学研究費
頸椎坐位動態MRI撮影による頸髄症発症の予測診断の可能性	高木 健治	脳神経外科	910	補 日本学術振興会 委 科学研究費
無月経患者に対するローヤルゼリーの月経回復効果の検討	清水 良彦	母子・女性診療科	1,450	補 みつばち研究助 委 成基金
間接性膀胱炎発症における酸感受性侵害受容器分子(ASICおよびTRPV1)の関与	荒木 勇雄	泌尿器科	1,300	補 文部科学省科学 委 研究費補助金
ヒト胎児性癌新規マーカーDNMT3Lの機能解析とその臨床応用	岡本 圭生	泌尿器科	7,280	補 文部科学省科学 委 研究費補助金
膀胱癌発症におけるVariant cyclin D1bの役割の解明	金 哲 将	泌尿器科	1,430	補 文部科学省科学 委 研究費補助金
網膜錐体サイクリックGMP依存性(CNG)チャンネルの機能的解析	村木 早苗	眼科	1,170	補 文部科学省科学 委 研究費補助金
小眼球による視覚障害の原因を特定するための疫学調査と診断・治療基準の創成	西田 保裕	眼科	2,000	補 厚生労働科学研 委 究費補助金
網膜脈絡膜・視神経萎縮症に関する調査研究	大路 正人	眼科	3,000	補 厚生労働科学研 委 究費補助金
血管新生黄斑症に対するペプチドワクチン療法	大路 正人	眼科	17,550	補 厚生労働科学研 委 究費補助金

小計  
18

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
血管内皮増殖因子の眼内動態に関する研究	大路 正人	眼科	1,170	補委 文部科学省科学研究費補助金
心筋保護を標的にした吸入麻酔薬の最適投与方法	北川 裕利	麻酔科	2,470	補委 文部科学省科学研究費補助金
虚血並びに慢性梗塞における心筋・交感神経・副交感神経バイアビリティの解析	山崎 登自	麻酔科	1,170	補委 文部科学省科学研究費補助金
干渉増幅反射式センサーを用いた吸入麻酔薬濃度モニタリング装置の開発	今宿 康彦	麻酔科	1,400	補委 文部科学省科学研究費補助金
術中回収式自己血輸血、紫外線照射による回収血中の細菌腫瘍細胞の不活化	小島 修	麻酔科	1,600	補委 文部科学省科学研究費補助金
麻酔薬によるイオンチャンネル機能修飾メカニズムの解明	瀬戸 倫義	麻酔科	910	補委 文部科学省科学研究費補助金
ヒト心房カリウムイオンチャンネルにおける麻酔薬の心房細動予防効果	尾崎 将之	麻酔科	780	補委 文部科学省科学研究費補助金
吸入麻酔薬の心筋保護作用に関わる分子基盤の解明	小嶋 亜希子	麻酔科	1,820	補委 文部科学省科学研究費補助金
核磁気共鳴スペクトロスコピーを用いた慢性疼痛の高次脳機能評価法の確立	福井 聖	ペインクリニック科	1,170	補委 文部科学省科学研究費補助金
320例MDCTを用いた局所肺機能評価法の開発に関する研究	村田 喜代史	放射線科	1,560	補委 日本学術振興会
高速核磁気共鳴動画像を用いた腸管蠕動運動の定量解析および腸管機能診断への臨床応用	古川 顕	放射線科	1,820	補委 日本学術振興会
極小超常磁性体酸化鉄造影ラット脳腫瘍MR像の造影効果に寄与する免疫学的要因の検討	井藤 隆太	放射線科	1,170	補委 日本学術振興会
薬剤性肺障害ウサギモデルを用いた各種薬剤の治療効果：病理組織とCT画像の対比	渡辺 尚武	放射線科	2,080	補委 文部科学省
計算解剖モデルに基づく診断支援	高橋 雅士	放射線科	500	補委 文部科学省
一般化N次元PCAに基づく人体臓器の統計ボリュームモデリングと診断支援への応用	古川 顕	放射線科	650	補委 日本学術振興会
肺野限局性すりガラス様陰影の自然史解明のための前向き研究	村田 喜代史	放射線科	1,200	補委 がん研究開発
極小超常磁性体酸化鉄粒子(USPIO)を用いた動脈硬化病変のMRI画像と病理の比較検討	大谷 秀司	放射線科	1,000	補委 日本医学放射線学会
力学的ストレス下における軟骨細胞間応答	今井 晋司	リハビリテーション科	3,100	補委 文部科学省科学研究費補助金
体組成分析による人工関節全置換術の評価	岩井 宏治	リハビリテーション科	110	補委 滋賀県受託研究

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
過大侵襲時における免疫修飾作用としての超短時間作用型β1遮断薬の心筋に対する効果	辻田 靖之	救急・集中治療部	1,560	補委 文部科学省科学研究費補助金
敗血症における高血糖状態の肺不全発症機序	松村 一弘	救急集中治療医学講座	1,560	補委 文部科学省科学研究費補助金
肝血流改変と遺伝子導入による全膵機能再生の試み	藤野 和典	救急集中治療医学講座	1,950	補委 文部科学省科学研究費補助金
重症患者における多臓器不全発症のメカニズム解明の試み	田畑 貴久	救急・集中治療部	1,690	補委 文部科学省科学研究費補助金
日本臨床検査医学会学術推進プロジェクト研究	茶野 徳宏	臨床検査医学講座	500	補委 日本臨床検査医学会
Autophagy-Senescence統合と解離	乾 琢真	臨床検査医学講座	2,000	補委 学長裁量経費
ヒト胎児性癌新規マーカーDNMT3Lの機能解析	南 佳ほり	臨床検査医学講座	2,000	補委 学長裁量経費
骨格成長に寄与する新規分子の解明	西村 一郎	臨床検査医学講座	2,000	補委 学長裁量経費
乳癌の予後を推定する新規マーカーの解析	茶野 徳宏	臨床検査医学講座	3,000	補委 学長裁量経費
頭頸部癌治療における治療標的分子RECQU, WRN	新井 啓仁	臨床検査医学講座	200	補委 学長裁量経費
プログラムされたドラッグキャリアの構築	小松 直樹	化学臨床検査	1,000	補委 日本学術振興会挑戦的萌芽
糸球体上皮細胞のAMPK-ACC経路制御による糖尿病性腎症に対する新たな治療戦略	一色 啓二	血液浄化部	800	補委 文部科学省科学研究費補助金
医療機関におけるがん診療の質を評価する指標の開発とその計測システムの確立に関する研究	目片 英治	化学療法部	1,000	補委 厚生労働科学研究費補助金
先天性心疾患モデルラットの全胚培養による刺激伝導系の発生及び細胞機能異常の解明	中川 雅生	治験管理センター	1,560	補委 文部科学省科学研究費補助金
DNA・血液サンプルおよび臨床情報の収集	中川 雅生	治験管理センター	8,500	補委 文部科学省研究振興局長
小児等の特殊患者に対する医薬品の適正使用に関する研究	中川 雅生	治験管理センター	700	補委 厚生労働省科学研究費補助金
医学生臨床研究に対する意識調査に基づいた臨床実習のあり方について(中核病院としての小児治験・臨床研究体制の構築)	中川 雅生	治験管理センター	109,301 (主任研究者が一括管理)	補委 厚生労働省科学研究費補助金
新規経口分子標的抗がん剤の体内動態・薬効の個体差解明に基づく投与アルゴリズム確立	寺田 智祐	薬剤部	10,270	補委 文部科学省科学研究費補助金
抗がん剤多剤同時測定法確立と情報科学の融合によるがん薬物療法の個別最適化戦略	寺田 智祐	薬剤部	1,300	補委 文部科学省科学研究費補助金

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
医療連携推進・薬剤師の資質向上に必要な行政的対応策に関する研究	寺田 智祐	薬剤部	1,100	③ 厚生労働科学研究費補助金 委

計  
110

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
Progress in Neuro-Psychopharmacology & Biological Psychiatry 34;401-405 2010	QTc prolongation and antipsychotic medication in 1017 patients with schizophrenia.	Ozeki Y et al.	循環器内科
Am Heart J. 159: 63-67 2010	Prognostic role of highly sensitive cardiac troponin I in patients with systolic heart failure.	Tsutamoto T et al.	循環器内科
Hypertens Res. 33;118-122 2010	Comparison of the long-term effects of candesartan and olmesartan on plasma angiotensin II and left ventricular mass index in patients with hypertension.	Tsutamoto T et al.	循環器内科
Heart Rhythm 7;199-205 2010	KCNE2 modulation of Kv4.3 current and its potential role in fatal rhythm disorders.	Wu J. et al.	循環器内科
Circ. Arrhythm Electrophysiol. 3;10-17 2010	Clinical characteristics and genetic background of congenital long QT syndrome diagnosed in fetal, neonatal and infantile life. A nation-wide questionnaire survey in Japan.	Horigome H et al	循環器内科
Heart Rhythm 7;289-294 2010	P-wave and the development of atrial fibrillation.	Ishida K et al.	循環器内科
Lipids 45; 329-335 2010	Pitavastatin reduces Lectin-Like oxidized low-density lipoprotein receptor-1 ligands in hypercholesterolemic humans.	Matsumoto T et al.	循環器内科
Heart Rhythm 7;647-652 2010	High prevalence of early repolarization in short QT syndrome.	Watanabe H et al.	循環器内科
Journal of Membrane Biology 235: 73-87 2010	Characterization of the rapidly activating delayed rectifier potassium current, IKr, in HL-1 mouse atrial myocytes.	Toyoda H et al.	循環器内科
Int J Cardiol. 144 (1) :69-72 2010	A family of hereditary long QT syndrome caused by Q738X HERG mutation.	Yasuda S et al.	循環器内科
Int J Cardiol. 145 (1) :61-64 2010	A novel SCN5A mutation associated with the linker between III and IV domains of Na(v)1.5 in a neonate with fatal long QT syndrome.	Yamamura K et al.	循環器内科
Journal of Arrhythmia 26;3-4 2010	Bi-directional ventricular tachycardia revised.	Horie M	循環器内科
Heart Rhythm 7;1411-1418	Long QT syndrome with compound mutations is associated with a more severe phenotype: A Japanese multicenter study.	Itoh H et al.	循環器内科

小計

13

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Hypertension 56 (3) :364-368 2010	Angiotensin-converting enzyme inhibition augments coronary release of tissue plasminogen	Matsumoto T et al.	循環器内科
Ann Nucl Med. 24 (6) :469-76 2010	Relationship between exercise capacity and cardiac diastolic function assessed by time-volume curve from 16-frame gated myocardial perfusion SPECT.	Yoshino T et al.	循環器内科
Circ J. 17;2535-2571 2010	Atrioventricular block-induced Torsades de Pointes with clinical and molecular backgrounds similar to ongenital long QT syndrome.	Oka Y et al.	循環器内科
Europace 12;1623-1629 2010	Heart rate-dependent variability of cardiac events in type 2 congenital long-QT syndrome.	Nagaoka I et al.	循環器内科
Journal of Arrhythmia 26: 127-133 2010	Prevalence and QT interval of early repolarization in a hospital-based population.	Hayashi H et al.	循環器内科
J Card Fail. 16:812-22 2010	Clinical features of myocardial triglyceride in different types of cardiomyopathy assessed by proton magnetic resonance spectroscopy: Comparison with myocardial creatine.	Nakae I et al.	循環器内科
Chest 138 (3) : 635-640 2010	CT emphysema predicts mortality in COPD.	Nakano Y et al.	呼吸器内科
Adv Exp Med Biol 662: 115-120 2010	Age-related changes in the trachea in healthy adults.	Nakano Y et al.	呼吸器内科
Eur Respir J 35 (4) : 821-829 2010	Pirfenidone in idiopathic pulmonary fibrosis: A phase III clinical trial in Japan.	Pirfenidone Clinical Study Group in Japan	呼吸器内科
Respirology 15 (8) : 1252-1258 2010	Detection and prevalence of chronic obstructive pulmonary disease in a cardiovascular clinic: evaluation using a hand held FEV1/FEV6 meter and questionnaire.	Wada H et al.	呼吸器内科
Respir Res 11 (1) : 153 2010	Quantification of lung surface area using computed tomography.	Nagao T et al.	呼吸器内科
Respiration 2010	Association of Alveolar Nitric Oxide Levels with Pulmonary Function and Its Reversibility in Stable Asthma.	Yamaguchi M et al.	呼吸器内科
Respiration 70: 256- 259 2010	Intravesical Mitomycin C-induced interstitial pneumonia.	Wada H et al.	呼吸器内科
BMJ Case Reports published online 29 November 2010	Tracheal Fistula Associated with Bevacizumab 20 Months after Mediastinal Radiation.	Yamada H et al.	呼吸器内科
J clin Biochem Nutr. 46 (1) :68-72, 2010	Energy metabolism in Japanese patients with Crohn's disease.	Sasaki M	消化器内科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
International Journal of Molecular Medicine 25 (2) :203-208, 2010	Proteus mirabilis sp. Intestinal microflora grow in a dextran sulfate sodium-rich environment .	Araki Y	消化器内科
J clin Biochem Nutr. 47 (1) :32-36, 2010	Energy expenditure in Japanese patients with severe or moderate ulcerative colitis.	Sasaki M	消化器内科
Oncology Reports 24 (4) :869-874, 2010	Increased apoptosis and decreased proliferation of colonic epithelium in dextran sulfatesodium-induced colitis in mice.	Araki Y	消化器内科
World journal of Gastroenterology 16 (19) :2355-2361, 2010	Butyrate stimulates IL-32alpha expression in human intestinal epithelial lines.	Kobori A	消化器内科
Journal of Gastroenterology 45 (10) :999-1007, 2010.	Interleukin-33 expression is specifically enhanced in inflamed mucosa of ulcerative colitis.	Kobori A	消化器内科
Journal of Gastroenterology 45 (10) :1014-1021, 2010	The multidrug-resistance protein 4 polymorphism is a new factor accounting for thiopurine sensitivity in Japanese patients with inflammatory bowel disease.	Ban H	消化器内科
Gut59 (4) :531-541, 2010	Expression of interleukin-1 like cytokine interleukin-33 and its receptor complex (ST2L and IL1RAcP) in human pancreatic myofibroblasts.	Nishida A	消化器内科
Int J Obes (Lond).	Transcription factor AP-2beta inhibits expression and secretion of leptin, an insulin-sensitizing hormone, in 3T3-L1 adipocytes.	Fuke T et al.	糖尿病内分泌内科
J Atheroscler Thromb.	Effects of a fish-based diet on the serum adiponectin concentration in young, non-obese, healthy Japanese subjects.	Kondo K et al.	糖尿病内分泌内科
Diabetes Care.	Association between urinary type IV collagen level and deterioration of renal function in type 2 diabetic patients without overt proteinuria.	Araki S et al.	腎臓内科
Diabetes.	Replication study for the association between four Loci identified by a genome-wide association study on European American subjects with type 1 diabetes and susceptibility to diabetic nephropathy in Japanese subjects with type 2 diabetes.	Maeda S et al.	腎臓内科
Biochem Biophys Res Commun.	Oleate and eicosapentaenoic acid attenuate palmitate-induced inflammation and apoptosis in renal proximal tubular cell.	Soumura M et al.	腎臓内科

小計  
12

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Clin Exp Nephrol.	Elevated serum levels of interleukin-18 in patients with overt diabetic nephropathy: effects of miglitol.	Uzu T et al.	腎臓内科
Biochem Biophys Res Commun.	Low concentration of 4-hydroxy hexenal increases heme oxygenase-1 expression through activation of Nrf2 and antioxidative activity in vascular endothelial cells.	Ishikado A et al.	糖尿病内分泌内科
Eur J Pharmacol.	Presence and functional role of the rapidly activating delayed rectifier K(+) current in left and right atria of adult mice.	Nakamura H et al.	神経内科
Journal of Diabetes Investigation	Effects of blood pressure and the renin-angiotensin system on platelet activation in type 2 diabetes.	Uzu T et al.	腎臓内科
Intern Med.	Amitriptyline and lorazepam improved catatonia and occipital hypoperfusion in a patient with	Maeda K et al.	神経内科
Intern Med.	Multiple cerebral aneurysms caused by HIV-associated vasculopathy.	Sanada M et al.	神経内科
J Neurol Neurosurg Psychiatry.	Activated microglia in the subthalamic nucleus in hyperglycaemic hemiballism: a case report.	Maeda K et al.	神経内科
Diabetes.	Resveratrol improves oxidative stress and protects against diabetic nephropathy through normalization of Mn-SOD dysfunction in AMPK/SIRT1-independent pathway.	Kitada M et al.	腎臓内科
Diabetol Int	Laparoscopic sleeve gastrectomy leads to rapid improvement of glucose tolerance and insulin secretion with enhanced glucagon-like peptide (GLP-1) secretion.	Ugi S et al.	糖尿病内分泌内科
Diabetol Int	Effects of hyperglycemia on oxidative stress and antioxidant potential in patients with type 2 diabetes.	Ikebuchi M et al.	糖尿病内分泌内科
Lung Cancer	Overexpression of MAD2 predicts clinical outcome in primary lung cancer patients.	Daigo Y et al.	腫瘍内科
Cancer Sci 102 (4) :697-705	A novel tumor-associated antigen, cell division cycle 45-like can induce cytotoxic T-lymphocytes reactive to tumor cells.	Daigo Y et al.	腫瘍内科
Genes Chromosomes Cancer 50 (1) :13-24	C12orf48, termed PARP-1 binding protein, enhances poly (ADP-ribose) polymerase-1 (PARP-1) activity and protects pancreatic cancer cells from DNA damage.	Daigo Y et al.	腫瘍内科

小計

13



雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Cancer Sci 102 (1) :245-252	Association of a novel long non-coding RNA in 8q24 with prostate cancer susceptibility.	Daigo Y et al.	腫瘍内科
Nat Genet 42 (10) : 893-896	Variation in TP63 is associated with lung adenocarcinoma susceptibility in Japanese and Korean populations.	Daigo Y et al.	腫瘍内科
Mol Cell Proteomics 9 (9) :1819-1828	Development of serum glycoproteomic profiling technique; simultaneous identification of glycosylation sites and site-specific quantification of glycan structure changes.	Daigo Y et al.	腫瘍内科
Plos One 5 (7) : e11824	Genome-wide association study of pancreatic cancer in Japanese population.	Daigo Y et al.	腫瘍内科
Cancer Res 70 (13) : 5326-5336	Wnt inhibitor Dickkopf-1 as a target for passive cancer immunotherapy.	Daigo Y et al.	腫瘍内科
Cancer Res 70 (13) : 5337-5347	Phosphorylation and activation of cell division cycle associated 5 by mitogen-activated protein kinase play a crucial role in human lung carcinogenesis.	Daigo Y et al.	腫瘍内科
Hum Mol Genet 19 (11) : 2303-2312	A genome-wide association study in 19 633 Japanese subjects identified LHX3-QSOX2 and IGF1 as adult height loci.	Daigo Y et al.	腫瘍内科
Hum Mol Genet 19 (10) : 2079-2085	Common variations in PSMD3-CSF3 and PLCB4 are associated with neutrophil count.	Daigo Y et al.	腫瘍内科
Br J Cancer 103 (2) : 217-222	UHRF1 is a novel diagnostic marker of lung cancer.	Daigo Y et al.	腫瘍内科
Genes Chromosomes Cancer 49 (4) :353-367	Activation of an oncogenic TBC1D7 (TBC1 domain family, member 7) protein in pulmonary carcinogenesis.	Daigo Y et al.	腫瘍内科
Int J Cancer 126 (9) : 2153-2163	The forkhead box M1 transcription factor as a candidate of target for anti-cancer immunotherapy.	Daigo Y et al.	腫瘍内科
Pediatric Blood and Cancer 55 (7) : 1287-1295 2010	Minimal residual disease-based augmented therapy in childhood acute lymphoblastic leukemia: A report from the Japanese Childhood Cancer and leukemia Study Group.	Yamaji K et al.	小児科
International Journal of Clinical Pharmacology and Therapy 48 (5) : 327-334 2010	Pharmacokinetic and pharmacodynamic investigation of irinotecan hydrochloride in pediatric patients with recurrent or progressive solid tumors.	Kimura T et al.	小児科
Japanese Journal of Pediatric Hematology 24: 283-291 2010	A morphology-based approach for the treatment of children with acute myeloid leukaemia: A report from the Japanese Children's Cancer and Leukemia Study Group AML 9805 Study.	Taga T et al.	小児科

小計

14

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Blood 116 (22) : 4631-4638 2010	Down syndrome and GATA1 mutations in transient abnormal myeloproliferative disorder: mutation classes correlate with progression to myeloid leukemia.	Kanezaki R et al.	小児科
Pediatr Neurol 42: 277-279 2010	Seizure susceptibility due to antihistamines in febrile seizures.	Takano T et al.	小児科
Congenit Anom (Kyoto) 50: 64-67 2010	Congenital polymicrogyria including the perisylvian region in early childhood.	Takano T et al.	小児科
Neuropath Appl Neuro 36: 353-355 2010	Aprosencephaly with rhombencephal osynapsis and hamartomatous midbrain dysplasia.	Takano T et al.	小児科
Epilepsy Behav 18 : 505-506 2010	Polymicrogyria without epilepsy by aberrantly migrating inhibitory interneurons.	Takano T et al.	小児科
日本消化器外科学会雑誌・43(4) : 466 ~ 471 2010	外巣径ヘルニア嚢内に発生した外性子宮内膜症の1例	清水 智治	消化器外科 乳腺・一般外科
癌と化学療法・37(4) : 687~689 2010	Capecitabine+Docetaxel併用療法における手足症候群に対してVitamin B6が有効であった乳癌肝転移の1例	梅田 朋子	消化器外科 乳腺・一般外科
成人病と生活習慣病・40(3) : 288~294 2010	現在の肥満外科治療の問題点	山本 寛	消化器外科 乳腺・一般外科
Breast Cancer Res Treat 2010	Phase III randomized adjuvant study of tamoxifen alone versus sequential tamoxifen and anastrozole in Japanese postmenopausal women with hormone-responsive breast cancer: N-SAS BC03 study.	Aihara Tomohiko	消化器外科 乳腺・一般外科
治療学・44(4) : 120 ~ 127 2010	新しい肥満治療アルゴリズム	谷 徹	消化器外科 乳腺・一般外科
信学技報 2010	医療応用のための貫通孔を有する超音波円形プローブ	田中 雄介	消化器外科 乳腺・一般外科
癌と化学療法・37(5) : 915~918 2010	Occult breast cancer with EDTA-dependent pseudothrombocytopenia -A case report-	Abe Hajime	消化器外科 乳腺・一般外科
急性血液浄化法 徹底ガイド 第2版・29 ~ 34 2010	血液浄化器(吸着)の種類と性能	遠藤善裕	消化器外科 乳腺・一般外科
Journal of Surgical Research・161 : 301 ~ 311 2010	Adiponectin deficiency promotes the production of inflammatory mediators while severely exacerbating hepatic injury in mice with polymicrobial sepsis.	Uji Yoshitaka	消化器外科 乳腺・一般外科
Surgery・145(5) : 550 ~ 557 2010	Adiponectin deficiency is associated with severe polymicrobial sepsis, high inflammatory cytokine levels, and high mortality.	Uji Yoshitaka	消化器外科 乳腺・一般外科

小計

15

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本外科系連合学会誌・ 35(2) : 183~188 2010	Detection of plasma endotoxin using a novel rapid limulus amoebocyte lysate assay in a patient with sepsis caused by colorectal perforation during tocilizumab treatment.	Shimizu Tomoharu	消化器外科 乳腺・一般外科
Obesity・18(7) : 1277~ 1282 2010	Relation of the expression of transcriptional factor TFAP2B to that of adipokines in subcutaneous and omental adipose tissues.	Ugi Satoshi	消化器外科 乳腺・一般外科
Esophagus・7 : 105~109 2010	Successful treatment for a patient with esophageal carcinoma that amalgamates with polymyositis: a case report.	Yamamoto Hiroshi	消化器外科 乳腺・一般外科
Diseases of the Colon & Rectum・53(11) : 1555 ~1562 2010	Real-time magnetic resonance-guided microwave coagulation therapy for pelvic recurrence of rectal cancer: Initial clinical experience using a 0.5T open magnetic resonance system.	Shimizu Tomoharu	消化器外科 乳腺・一般外科
手術・64(6) : 763~766 2010	結紮クリップ	塩見 尚礼	消化器外科 乳腺・一般外科
World Journal of Gastroenterology 16(25) : 3215~3218	Hepatocellular carcinoma occurring in a Crohn's disease patient.	Ishida Mitsuaki	消化器外科 乳腺・一般外科
外科・72(8) : 857~863	II. Non-vascular interventional radiology 5. Interventional MRIによる癌治療	村上耕一郎	消化器外科 乳腺・一般外科
癌と化学療法・37(8) : 1483~1487 2010	乳癌術後補助化学療法としてのFEC100 Followed by Docetaxel 100の認容性の検討	阿部 元	消化器外科 乳腺・一般外科
消化器外科・33(10) : 1573~1580 2010	イレウスの手術術式 開腹手術	清水 智治	消化器外科 乳腺・一般外科
Cancer Research・ 70(18) : 7031 ~ 7041 2010	Visible drug delivery by supramolecular nanocarriers directing to shingle-platformed diagnosis and therapy of pancreatic tumor model.	Kaida Sachiko	消化器外科 乳腺・一般外科
臨床外科・65(9) : 1315 ~1318 2010	双児出産後に発症した白線ヘルニアに対してDirect Kugel PatchRで修復を行った1手術例	村上 耕一郎	消化器外科 乳腺・一般外科
癌と化学療法37(10) : 1887~1891 2010	Trastuzumab術後補助療法における点滴投与時間短縮時の安全性の検討	阿部 元	消化器外科 乳腺・一般外科
日本臨床外科学会雑誌・ 71(11) : 2878 ~ 2885 2010	抗癌剤感受性検査に基づいて化学療法を行った小腸癌の2例	清水 智治	消化器外科 乳腺・一般外科
日本臨床外科学会雑誌・ 71(12) : 3098 ~ 3102 2010	敗血症からDICとなった食道癌術後感染性心内膜炎の1例	赤堀 浩也	消化器外科 乳腺・一般外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本外科系連合学会誌・35(5):804~809 2010	A clinical potential of the anti-cancer drug sensitivity test for patients with endocrine cell carcinoma of the rectum: report of a case.	Shimizu Tomoharu	消化器外科 乳腺・一般外科
消化器外科・33(5)臨時増刊号:962~964 2010	欠尿、無尿	清水 智治	消化器外科 乳腺・一般外科
International Journal of Cancer・127:2095~2105 2010	Characteristic methylation profile in CpG island methylator phenotype-negative distal colorectal cancers.	An Byonggu	消化器外科 乳腺・一般外科
World Journal of Hepatology・27:2(10):387~391 2010	Hepatic reactive lymphoid hyperplasia in a patient with primary biliary cirrhosis.	Ishida Mitsuaki	消化器外科 乳腺・一般外科
Surgery Today・41:197~202 2011	Indocyanine green fluorescence imaging system for sentinel lymph node biopsies in early breast cancer patients.	Abe Hajime	消化器外科 乳腺・一般外科
別冊日本臨床 新領域別症候群シリーズ・15:45~49 2011	肝・胆道系症候群(第2版) -その他の肝・胆道系疾患を含めて- III肝外胆道編 I肝外胆管(胆管、胆嚢管、総胆管)腫瘍 肝外胆管神経腫・胆管断端神経腫	仲 成幸	消化器外科 乳腺・一般外科
Nippon Shokakibyō Gakkai Zasshi・108(4):585~591 2011	Impact of gastrointestinal hormones on metabolic surgery.	Yamamoto Hiroshi	消化器外科 乳腺・一般外科
日本腹部救急医学会雑誌・31(3):467~472 2011	悪性疾患に対する化学療法中に発症した穿孔性腹膜炎における予後因子に関する検討	清水 智治	消化器外科 乳腺・一般外科
日本臨床外科学会雑誌・72(3):782~785 2011	腹腔内遊離ガスを伴う非穿孔性腹膜炎を呈した気腫性膀胱炎の1例	竹林 克士	消化器外科 乳腺・一般外科
癌と化学療法・38(4):681~684 2011	S-1/Cisplatin療法を施行した進行小腸癌の1例	竹林 克士	消化器外科 乳腺・一般外科
日本臨床外科学会雑誌・72(4):1015~1021 2011	脂腺成分を伴った腓リンパ上皮嚢胞の2例	赤堀 浩也	消化器外科 乳腺・一般外科
腎と透析2010増刊号・384~387 2011	6. 急性血液浄化療法 3) 敗血症治療	清水 智治	消化器外科 乳腺・一般外科
Innovations. 6:54-6 2011	A novel design of posterior leaflet butterfly resection for mitral valve repair.	Asai T	心臓血管外科
Ann Thorac Surg. 289:1106-11 2010	Efficacy of bilateral internal thoracic artery grafting in patients with chronic kidney	kinoshita T	心臓血管外科
Ann Thorac Surg. 90:1173-9 2010	Off-pump skeletonized bilateral versus single internal thoracic artery grafting in patients with diabetes.	kinoshita T	心臓血管外科
Heart Surgery Forum. 13:E74-9 2010	Does Off-Pump Bilateral Internal Thoracic Artery Grafting Increase Operative Risk in Dialysis Patients?	kinoshita T	心臓血管外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Heart Surgery Forum 13:E280-6 2010	Bilateral versus single internal thoracic artery grafting in dialysis patients with multivessel disease.	kinoshita T	心臓血管外科
Heart Surgery Forum	Steal from skeletonized ITA graft during post-CABG hemodialysis.	kinoshita T	心臓血管外科
Circ J. 74:1846-51 2010	Statin for prevention of atrial fibrillation after off-pump coronary artery bypass grafting in Japanese patients.	kinoshita T	心臓血管外科
Circ J. 74:1866-72 2010	Preoperative Renal Dysfunction and Mortality after Off-Pump Coronary Artery Bypass Grafting in Japanese.	kinoshita T	心臓血管外科
Circ J. 74:1800-1 2010	The role of renin angiotensin system inhibitors in patients undergoing off-pump coronary artery bypass grafting.	kinoshita T	心臓血管外科
Circ J. 75:226 2010	Beneficial actions of statins in the reduction of atrial fibrillation and stabilization and regression of coronary plaques-But how and why?	kinoshita T	心臓血管外科
Circulation. 122:A18394 2010	Off-Pump Bilateral versus Single Skeletonized Internal Thoracic Artery Grafting in High Risk Patients.	kinoshita T	心臓血管外科
Innovations. ;6:77-83 2011	Bilateral Internal Thoracic Artery Grafting, Current State-of-the-Art.	kinoshita T	心臓血管外科
J Jpn Coron Assoc16:241-8 2010	The evidence based clinical practice for selection of coronary artery disease treatment.	kinoshita T	心臓血管外科
Ann Thorac Surg. 90:1501-6 2010	Left main coronary artery disease does not affect the outcome of off-pump coronary artery bypass grafting.	Suzuki T	心臓血管外科
Interact Cardiovasc Thorac Surg. 11:34-7 2010	Safety and efficacy of central cannulation through ascending aorta for type A aortic dissection.	Suzuki T	心臓血管外科
Kyobu Geka. 63:1141-4 2010	Acute type A aortic dissection, developed shortly after aortic valve replacement and coronary artery bypass grafting.	Nishimura O	心臓血管外科
Techniques in Knee Surgery 9: 85-94 2010	Autogenous Bone-cartilage Transplantation.	Matsusue Y et al	整形外科
Spine 35: 1279-1284 2010	Clinical output of the rheumatoid cervical spine in patients with multilating-type joint involvement: For better ADL and longer survival.	Mori K et al.	整形外科

小計

14

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
J Orthop Sci 15:816-824 2010	Relation of low-intensity pulsed ultrasound to the cell density of scaffold-free cartilage in a high-density static semi-open culture system.	Uenaka K et al.	整形外科
Bone 47: 617-625 2010	Malfunction of bone marrow-derived osteoclasts and the delay of bone fracture healing in diabetic mice.	Kawahara T et al.	整形外科
The Open Bone Journal 2: 32-37 2010	Opinion statement of the effect of mechanical stress on cartilage tissue engineering	Ando K et al.	整形外科
Cell Tissue Res 341: 371-379 2010	In-advance trans-medullary stimulation of bone marrow enhances spontaneous repair of full-	Nishizawa K et al	整形外科
臨床スポーツ医学 2010 ; 27 : 89-96	競技スポーツ帯同時に役立つ外傷初期治療ガイド Ⅲ運動器外傷の治癒過程 軟骨損傷	松末吉隆	整形外科
中部整災誌 2010 ; 53 : 41-42	関節リウマチによる軸椎垂直亜脱臼および環軸椎後方亜脱臼に対する手術療法の検討	猿橋康雄 他	整形外科
中部整災誌 2010 ; 53 : 947-948	脊椎疾患と神経疾患が合併した症例に対する診断と治療の問題点	猿橋康雄 他	整形外科
日本脊椎関節炎研究会誌 2010 ; 2 (1) : 67-70	候補遺伝子、およびゲノムワイドアプローチによる強直性脊椎炎の疾患感受性遺伝子の検索	森 幹士 他	整形外科
日本人工関節学会誌 2010 ; 40 : 88-89	変形性肩関節症に対する広背筋移行術併用人工骨頭置換術の試み	久保充彦 他	整形外科
日本人工関節学会誌 2010 ; 40 : 120-121	遠位固定型セメントレスロングシステムを用いた再置換術のX線学的検討	奥村法昭 他	整形外科
Peripheral Nerve 2010 ; 21 : 317-319	末梢神経損傷からの再生における脳由来神経栄養因子の役割	竹村宜記 他	整形外科
脳神経外科臨床マニュアル 改訂第4版 pp. 855-866、 シュプリンガー・ジャパン 2010	AVM手術のポイント	野崎 和彦	脳神経外科
脳卒中の外科38 : 29-33 2010	脳動静脈奇形の治療方針	横井 俊浩 他	脳神経外科
脳卒中の外科38 : 7-11 2010	破裂脳動脈瘤塞栓術 -10年間の治療成績-	中澤 拓也 他	脳神経外科
EBMに基づく脳神経疾患 の基本治療指針 (改訂第 3版) pp. 15-18 東京 MEDICAL VIEW 2010年	脳動静脈奇形	横井 俊浩 他	脳神経外科
Video Journal of Japan Neurosurgery Vol. 17 No. 1 2010	海綿状血管腫、血管芽腫の手術	野崎 和彦	脳神経外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
ビジュアル脳神経外科 1. 前頭葉・頭頂葉 メ ジカルビュー pp.194- 201 2010	言語・運動野の脳動脈奇形	横井 俊浩 他	脳神経外科
エルアイシー 2010	第5節 脳血管疾患、第6項 脳動脈瘤 「モデル動物利用マニュアル」 シリーズ「疾患モデルの作製と利用— 循環器疾患」	横井 俊浩 他	脳神経外科
脳神経外科ジャーナル 19:341 2010 Editorial Comment	受療者のQuality of Lifeからみた脳 ドックと説明医師の責任	野崎 和彦	脳神経外科
Clinical Neuroscience 28:938-940 2010	脳動脈瘤と炎症	横井 俊浩 他	脳神経外科
脳神経外科38:787-793, 2010	脳動脈瘤 発生・増大のメカニズム	横井 俊浩 他	脳神経外科
脳神経外科臨床マニユアル改訂第4版 第二巻VII 章脳血管障害 855-866頁 シュプリン ガー・ジャパン 2010.7	脳動脈奇形 (AVM) の手術のポイント	野崎 和彦	脳神経外科
ナースのための脳神経外 科 改訂3版 pp.12-27 メディカ出版 2010.9	脳	高木 健治	脳神経外科
ナースのための脳神経外 科 改訂3版 pp.213- 225メディカ出版 2010.9	脳動脈瘤	新田 直樹 他	脳神経外科
ナースのための脳神経外 科 改訂3版 pp.226- 235メディカ出版 2010.9	脳動脈奇形	地藤 純哉 他	脳神経外科
医学と薬学64:516 2010	脳実質損傷を生じた破裂ラトケ嚢胞の 一例	設楽 智史 他	脳神経外科
脳神経検査のグノーテ イ・セアウント この検 査ではここが見えない Part 1 MRI編 編集 小川彰 pp.18-25 シナジー出版 2010	ラクナ梗塞がFLAIRでは見えないことが ある	椎野 顯彦 他	脳神経外科
循環器疾患 疾患モデル の作成と利用 LIFE SCIENCE INFORMATION CENTER 429-435	第6節 脳動脈瘤モデル	横井 俊浩 他	脳神経外科
医学のあゆみ Vol.231 No.5 535-540	未破裂脳動脈瘤の最新エビデンスと治 療	横井 俊浩 他	脳神経外科
医学のあゆみ Vol.236 No.2 107-110	脳動脈瘤発生増大のメカニズム	横井 俊浩 他	脳神経外科
脳神経外科ジャーナル Vol.20 No.1 42-46	Cerebral AVM grade IV&Vのbest treatment	横井 俊浩 他	脳神経外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
産経新聞 2010. 1. 11	家庭と健康：くも膜下出血 激しい頭痛と嘔吐	中澤 拓也	脳神経外科
産経新聞 2010. 1. 18	家庭と健康：脳血管内治療 切らずに治す	中澤 拓也	脳神経外科
日本受精着床学会雑誌 27 (1) ;161-164	6日目携帯不良胚盤胞の凍結融解移植の有用性	鹿苑 摩耶 他	母子・女性診療科
ENPERIMENTAL AND THERAPEUTIC MEDICINE	Neoadjuvant intraarterial chemotherapy for stage II B-III B cervical cancer in Japanese women.	郭 翔志 他	母子・女性診療科
産婦人科の進歩 62 (2) :79-80	呼吸不全をきたした筋緊張性ジストロフィー合併妊娠の1例	小野 哲男 他	母子・女性診療科
滋賀県産科婦人科雑誌 2;1-4	Mini-Review 卵巣機能温存についての最近の知見	清水 良彦 他	母子・女性診療科
滋賀県産科婦人科雑誌 2:29-31	妊娠中血小板減少をきたし、分娩後に腎障害が進行しSLEと診断された一症例	桂 大輔 他	母子・女性診療科
Fertility and Sterility 94 (3) 1084-1085	Three-dimensional computed tomography combined with hysterosalpingography is useful for both diagnosis and treatment of iatrogenic diverticulum of the uterus.	清水 良彦 他	母子・女性診療科
J. Obste. Gynaecol. Res. 36 (1) :115-118	Long-term outcome, including pregnancy rate, recurrence rate and ovarian reserve, after laparoscopic laser ablation surgery in infertile women with endometrioma.	清水 良彦 他	母子・女性診療科
日本産科婦人科内視鏡学会雑誌 26 (2) : 541-544	腹腔鏡下手術における発光尿管カテテルを用いた尿管損傷予防の工夫	郭 翔志 他	母子・女性診療科
日本泌尿器科学会雑誌 第101巻 第6号別冊	多精巣症の1例	水流 輝彦	泌尿器科
泌尿紀要 56巻4号	前立腺肥大症患者の夜間頻尿と睡眠障害に対するナフトピジルの有用性について	岩城 秀出洙	泌尿器科
Pharmaceuticals, 3	Emerging Families of Ion Channels Involved in Urinary Bladder Nociception.	荒木 勇雄	泌尿器科
Am J Ophthalmol. 2010 Nov;150 (5) :716-725 2010	Japan Microincision Vitrectomy Surgery Study Group. Multicenter survey with a systematic overview of acute-onset endophthalmitis after transconjunctival microincision vitrectomy surgery.	Oshima et al.	眼科
J Pediatr Ophthalmol Strabismus. :47:e1-3. 2010	A New Muscle Transposition Procedure to Correct Cyclodeviation without Tenotomy:	Muraki S et al.	眼科
Ophthalmic Research 45 (3) :122-128 2011	Closure of Sclerotomies after 25- and 23-Gauge Transconjunctival Sutureless Pars Plana Vitrectomy Evaluated by Optical Coherence Tomography.	Sawada T et al.	眼科



雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Retina 30(8):1316-1317 2010	The New Ring Holder for PEYMAN- WESSELS-LANDERS 132D Upright Vitreotomy Lens.	Kakinoki M et al.	眼科
Japanese Journal of Ophthalmol 54(4):368- 370 2010	Spontaneous closure of a macular hole after vitrectomy for an epiretinal membrane.	Ogawa M et al.	眼科
Retina 30(7):1034-1038 2010	Aqueous Vascular Endothelial Growth Factor after Intravitreal Injection of Pegaptanib or Ranibizumab in Patients with Age-Related Macular Degeneration.	Sawada O et al.	眼科
Invest Ophthalmol Vis Sci 51(3):1606-1608 2010	Pharmacokinetics of bevacizumab and its effect on vascular endothelial growth factor after intravitreal injection of bevacizumab in Macaque eyes.	Miyake T et al.	眼科
眼科臨床紀要3(1):33- 39 2010	調節性内斜視の治療-滋賀医大の症例 から-	村木早苗	眼科
Acta Ophthalmol 88(3):309-1 2010	on behalf of the EXTEND-1 Study Group. EXTEND-1:safety and efficacy of ranibizumab in Japanese patients with subfoveal choroidal neovascularisation secondary to age-related macular degeneration 6.	Tano Y and Ohji M et al.	眼科
British Journal of Pharmacology	Ca <sup>2+</sup> paradox injury mediated through TRPC channels in mouse ventricular myocytes.	小嶋 亜希子	麻酔科
日本ペインクリニック学会 誌	痛みの機能的脳画像診断	福井 聖、他	ペインクリニック科
医療機器学	機能的脳画像診断機器	福井 聖、他	ペインクリニック科
Br J Radiol 83(989) 428-432 2010	A Combination of cisplatin-eluting gelatin microspheres and flavopiridol enhances anti-tumour effects in a rabbit VX2 liver tumour model.	Nitta N et al.	放射線科
Int J Nanomedicine 9(5) 499-504 2010	Complex comprised of dextran magnetite and conjugated cisplatin exhibiting selective hyperthermic and controlled-release potential.	Sonoda A et al.	放射線科
Eur J Radiol 75(3) 384-390 2010	Ability of chest X-ray to detect faint shadows documented as ground- glass attenuation in images of computed tomography: a comparison between flat-panel detector radiography and film-screen radiography.	Nagatani Y et al.	放射線科
Jpn J Radiol 28(9) 656-662	Utility of contrast-enhanced ultrasonography for qualitative imaging of atherosclerosis in Watanabe heritable hyperlipidemic rabbits: initial experimental study.	Nitta-Seko A et al.	放射線科

小計

13

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Acad Radiol 2011 [Epub ahead of print]	The Possibility of Differentiation between Nonalcoholic Steatohepatitis and Fatty Liver in Rabbits on Gd-EOB-DTPA-enhanced Open-type MRI Scans.	Sonoda A et al.	放射線科
Eur J Radio 2011 [Epub ahead of print]	How accurate is CT morphometry of airway? Phantom and clinical validation study.	Takahashi M et al.	放射線科
J Thorac Imaging 2011 [Epub ahead of print]	Flat-Panel Detector Computed Tomography Imaging : Observer Performance in Detecting Pulmonary Nodules in Comparison With Conventional Chest Radiography and Multidetector Computed Tomography.	Otani H et al.	放射線科
Acad Radiol 2011 [Epub ahead of print]	Quantitative Measurement of Bleomycin-induced Lung Fibrosis in Rabbits Using Sequential in vivo Regional Analysis and High-Resolution Computed Tomography: Correlation with Pathologic Findings.	Nagatani Y et al.	放射線科
Exp. Anim. 60 (2) · 141-150 · 2011	Histological Examination of the Relationship between Respiratory Disorders and Repetitive Microaspiration Using a Rat Gastro-Duodenal Contents Reflux Model.	Oue K et al.	歯科口腔外科
歯科薬物療法 · 30 · 29-40 · 2011	口腔カンジダ症に対する抗真菌薬の臨床効果の適切な判定方法に関する研究—抗真菌薬の効果判定基準作成委員会報告—	中川洋一 他	歯科口腔外科
In Vitro Cell Dev Biol Anim · 47 (4) · 273-279 · 2011	Dexamethasone-induced up-regulation of two-pore domain K <sup>+</sup> channel genes, TASK-1 and TWIK-2, in cultured human periodontal ligament fibroblasts	Yamamoto T et al	歯科口腔外科
J Oral Maxillofac Surg · 69 (6) · 1691-1693 · 2011	Orthodontic treatment of deep impacted teeth in multiple keratocystic odontogenic tumor.	Nishikawa M et al.	歯科口腔外科
Bone 47: 617-625 2010	Malfunction of Bone Marrow Derived Osteoclasts and the Delay of Bone Fracture Healing in Diabetic Mice.	Kasahara T et al.	リハビリテーション科
Cell Tissue Res 34:371-379 2010	In-advance trans-medullary stimulation of the bone marrow enhances spontaneous repair of full-thickness articular cartilage defects in rabbits.	Nishizawa K et al.	リハビリテーション科
System J Orthop Sci 15 816-824 2010	Low-Intensity Pulsed Ultrasound Promoted Matrix Synthesis of Scaffold-free Cartilage Produced in High Density Static Semi-open Culture System.	Uenaka K et al.	リハビリテーション科
Heart Rhythm 7: 289-294 2010	P wave and the development of atrial fibrillation.	Ishida K et al.	リハビリテーション科
J Arrhythmia J Arrhythmia 26: 197	Prevalence and QT Interval Of Early Depolarization in a Hospital-based	Hayashi H et al	リハビリテーション科

小計

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Arrhythmia 20: 121 2010	Repolarization in a hospital based Population.	Hayashi H et al.	シオン科
Cardiovasc Electrophysiol 22: 350 2010	Remission of abnormal Conduction and Repolarization in the Right Ventricle After Chemotherapy in Patients With Anterior Mediastinal Tumor.	Miyamoto A et al.	リハビリテー ション科
Hypertension 56: 364- 368 2010	Angiotensin-converting enzyme inhibition augments coronary release of tissue plasminogen activator in women but not in men.	Matsumoto T et al.	リハビリテー ション科
Lipids 45: 329-335 2010	Pitavastatin reduces lectin-like oxidized low-density lipoprotein receptor-1 ligands in hypercholesterolemic humans.	Matsumoto T et al.	リハビリテー ション科
滋賀医科大学雑誌 2010	心疾患における運動療法	林 秀樹	リハビリテー ション科
心臓 42: 764-770 2010	自動体外式除細動器による救命後に下肢切断を要したが心臓リハビリテーションにより回復した2症例	渋川 武志 他	リハビリテー ション科
Circ J 75(4) 844 2010	Risk determinants in individuals with a spontaneous type 1 Brugada ECG.	Miyamoto A et al.	リハビリテー ション科
Heart Rhythm (in press)	Clinical and electrocardiographic characteristics of patients with short QT interval in a large hospital-based population.	Miyamoto A et al.	リハビリテー ション科
Circ Cardiovasc Genet (in press)	Regarding Article, Heritability of early repolarization: a population-based study.	Hayashi H et al.	リハビリテー ション科
Oncol Rep 23(4): 927- 931	Claudin expression profiles in Epstein-Barr virus-associated nasopharyngeal carcinoma.	Kojima F et al.	検査部
Human Pathol 41:458- 459	Re-evaluation of IgG4 in systemic fibroinflammatory disease with intracardiac involvement.	Takikita-Suzuki M et al.	検査部
Clin Neuropathol 29:2- 7	Malignant transformation in craniopharyngioma after radiation therapy: a case report and review of the literature.	Ishida M et al	検査部
PLoS One 30;5:e11404	RB1CC1 activates RB1 pathway and inhibits proliferation and cologenic survival in human cancer.	Chano T et al.	検査部
World J Hepatology 27:9 in press	Hepatic reactive lymphoid hyperplasia in a patient with primary biliary cirrhosis.	Ishida M et al.	検査部
Hmian Pathol in press	DNA methyltransferase 1, 3a, and 3b over expression and clinical significance in gastroenteropancreatic neuroendocrine tumors.	Rahman Md M et al.	検査部

13

小計

14

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Histopathology 56 384-394 2010	Clinicopathological features and CD57 expression in renal cell carcinoma in acquire cystic disease of the kidneys: with special emphasis on a relation to the duration of haemodialysis, the degree of calcium oxalate deposition, histological type, and possible tumorigenesis.	Enoki Y et al.	検査部
World J Gastroenterol 7;16; 3215-3218 2010	Hepatocellular carcinoma occurring in a Crohn's disease patient.	Ishida M et al.	検査部
Clin Cancer Res 15:16(10) 2751-2759 2010	DNMT3L is a novel marker and is essential for the growth of human embryonal carcinoma.	Minami K et al.	検査部
J Cutan Pathol in press	A case of intravascular large B-cell lymphoma colonizing in senile hemangioma.	Ishida M et al.	検査部
J Cutan Pathol 37(10): 1072-1076 2010	CD8-positive granulomatous mycosis fungoides; a case report with review of the literature.	Ishida M et al.	検査部
PLoS One 225; 12 e15737 2010	RB1CC1 together with RB1 and p53 predicts long-term survival in Japanese breast cancer patients.	Chano T et al.	検査部
Contrib Nephrol	Plasma dia-filtration for severe sepsis.	Eguchi Y	救急・集中治療部
Ther Apher Dial.	Multicenter study of plasma diafiltration in patients with acute liver failure.	Eguchi Y	救急・集中治療部
Ther Apher Dial.	Impact of plasma exchange on pharmacokinetic disposition of micafungin.	Eguchi Y	救急・集中治療部
World J Gastroenterol 16(25):3215-3218 2010	Hepatocellular carcinoma occurring in a Crohn's disease patient.	Ishida M et al.	光学医療診療部
World J Gastroenterol 16(19):2355-2361 2010	Butyrate stimulates IL-32alpha expression in human intestinal epithelial cell lines.	Kobori A et al.	光学医療診療部
J Gastroenterol 45(10):999-1007 2010	Interleukin-33 expression is specifically enhanced in inflamed mucosa of ulcerative colitis.	Kobori A et al.	光学医療診療部
J Gastroenterol 45(10):1014-1021 2010	The multidrug-resistance protein 4 polymorphism is a new factor accounting for thiopurine sensitive in Japanese patients with inflammatory bowel disease.	Ban H et al.	光学医療診療部
J Gastroenterol Hepatol 25(3):494-498 2010	Factors affecting the efficacy of cyclosporine therapy for refractory ulcerative colitis.	Bamba S et al.	光学医療診療部
World J Hepatol 2(10):387-391 2010	Hepatic reactive lymphoid hyperplasia in a patient with primary cirrhosis.	Ishida M et al.	光学医療診療部

小計  
15

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Gastroenterol (46):479-486 2011	Comparison of the fecal microbiota profiles between ulcerative colitis and Crohn's disease using terminal restriction fragment length polymorphism analysis.	Andoh A et al.	光学医療診療部
日本消化器内視鏡学会誌 53(3):1090-1096 2011	胃と腸に髄外性病変を認めた多発性骨髄腫の1例	望月 洋介 他	光学医療診療部
Birth Defects Research (Part B), 92(1):10-16 2011	Developmental defects of coronary vasculature in rat embryos administered bis-diamine.	Hanato T, et al	治験管理センター
J Infect Chemother 17:254-63 2011	Nationwide survey of severe respiratory syncytial virus infection in children who do not meet indications for palivizumab in Japan.	Mori M, et al.	治験管理センター
臨床薬理 Jpn Clin Pharmacol Ther 42(1):27-31 2011	臨床試験・治験被験者募集に関する多施設調査	角 栄里子 他	治験管理センター
日本小児臨床薬理学会雑誌、 23:104-106 2010	小児悪性腫瘍の治療における適応外使用の実態	藤田 彩子 他	治験管理センター
日本小児科学会雑誌、 114:7-14 2010	適正な小児薬物治療の確立を目指して	中川 雅生	治験管理センター
日本小児科学会雑誌、 114:1829-1835 2010	小児循環器疾患治療薬の適応拡大に向けた取り組み	中川 雅生	治験管理センター
日本小児循環器学会雑誌、 26:256-266 2010	Down症候群の心血管疾患-核型と表現型、肺高血圧に関する検討-	小穴 慎二 他	治験管理センター
日本小児科学会雑誌、 114(10):1567-1571 2010	アンジオテンシンII受容体拮抗薬を含めた慢性心不全治療が奏効した拡張型心筋症の1小児例	宗村 純平 他	治験管理センター
Pharmacogenet. Gemonics, 20(2), 135- 138 2010	Heterozygous variants of multidrug and toxin extrusions (MATE1 and MATE2-K) have little influence on the disposition of metformin in diabetic patients.	Terada T et al.	薬剤部
Drug Metab. Pharmacokinetic, 25(2), 190-199, 2010	Hepatitis C virus-related cirrhosis is a major determinant of the expression levels of hepatic drug transporters.	Terada T et al.	薬剤部
Int. J. Clin. Oncol., 15(5), 512-514, 2010	Tolerable sorafenib therapy for a renal cell carcinoma patient with hemodialysis. A case study.	Terada T et al.	薬剤部
Ann. Oncol., 21(6), 1382-1383, 2010	ABCG2 421C>A polymorphism and high exposure of sunitinib in a patient with renal cell carcinoma.	Terada T et al.	薬剤部

小計

14

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
J. Pharmacol. Exp. Ther., 334 (2), 651-656, 2010	Reduced renal clearance of a zwitterionic substrate cephalexin in MATE1-deficient mice.	Terada T et al.	薬剤部
J. Thorac. Oncol., 5 (5), 601-605, 2010	Pharmacokinetics of erlotinib and its active metabolite OSI-420 in patients with non-small cell lung cancer and chronic renal failure who are undergoing hemodialysis.	Terada T et al.	薬剤部
J. Thorac. Oncol., 5 (7), 950-955, 2010	Cerebrospinal fluid concentration of erlotinib and its active metabolite OSI-420 in patients with central nervous system metastases of non-small cell lung cancer.	Terada T et al.	薬剤部
Case Rep. Oncol., 3 (2), 98-105, 2010	Good clinical response to erlotinib in a non-small cell lung cancer patient harboring multiple brain metastases and a double active somatic epidermal growth factor gene mutation.	Terada T et al.	薬剤部
Pharm. Res., 28 (2), 405-412, 2011	Human NPC1L1 expression is positively regulated by PPAR $\alpha$ .	Terada T et al.	薬剤部
医療薬学, 36 (1), 57-60, 2010	ゲムシタピン単剤療法による血液毒性の性差.	寺田 智祐 他	薬剤部
医療薬学, 36 (3), 157-162, 2010	手術部における薬剤師の常駐体制の整備と経済効果に関する検討.	寺田 智祐 他	薬剤部
日本病院薬剤師会雑誌, 46 (12), 1653-1656, 2010	エルロチニブ服用継続に影響を及ぼす因子の探索.	寺田 智祐 他	薬剤部
TDM研究, 27 (1), 10-15, 2010	グリコペプチド系抗菌薬による副作用と血中濃度の関係.	炭 昌樹 他	薬剤部
小児科臨床, 63 (4), 571-576, 2010	小児処方せんの記載法—正しい薬物治療のために—	藤田 彩子 他	薬剤部
日本病院薬剤師会雑誌, 46 (6), 775-779, 2010	分子標的薬ソラフェニブにおける自施設での解析に基づく副作用説明書の作成.	若杉 吉宣 他	薬剤部
日本小児臨床薬理学会雑誌, 23 (1), 104-106, 2011	小児悪性腫瘍の治療における適応外使用の実態.	藤田 彩子 他	薬剤部

小計  
12  
計  
254

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること。(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 柏木 厚典		
管理担当者氏名	総務課長 大埜 生雄 薬剤部長 寺田 智祐	医療サービス課長 一井 信吾 放射線部長 村田 喜代史	病院管理課長 長谷川 浩一

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録  病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		医療サービス課 (診療情報管理室) 薬剤部 放射線部	診療録等の病歴資料は外来・入院別に1患者1ファイル方式による永久一元番号で分類し、入院が原本10年、10年以上経過後は光ファイリング化及び外来が最終来院日より10年間の保存を原則としている。エックス線写真は最終来院日より6年、死亡患者については5年の保存を原則としている。これらは、コンピュータによる集中管理を行っている。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	
	高度の医療の実績	病院管理課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	病院管理課	
	高度の医療の研修の実績	総務課	
	閲覧実績	医療サービス課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医療サービス課	
	入院患者数、外来患者数及び調剤の数を明らかにする帳簿	医療サービス課及び薬剤部	
項規第一号に掲げる体制の確保及び第九条の二十三第一	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理部	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全管理部	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療サービス課	

(様式第12)

		保管場所	管理方法
病院及び諸 の管理運営 に関する諸 記	規則第一条の十一 第一項各号及び第九 条の二十三第一項 第一号に掲げる体 制の確保の状況	院内感染対策のための 指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための 委員会の開催状況	感染制御部
		従業者に対する院内感 染対策のための研修の 実施状況	感染制御部
		感染症の発生状況の報 告その他の院内感染対 策の推進を目的とし た改善のための方策 の実施状況	感染制御部
		医薬品の使用に係る安 全な管理のための責 任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬 品の安全使用のため の研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用の ための業務に関する 手順書の作成及び当 該手順書に基づく業 務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用の ために必要となる情 報の収集その他の医 薬品の安全使用を 目的とした改善の ための方策の実施 状況	薬剤部
		医療機器の安全使用 のための責任者の 配置状況	臨床工学部
		従業者に対する医療 機器の安全使用の ための研修の実施 状況	臨床工学部
		医療機器の保守点検 に関する計画の策定 及び保守点検の 実施状況	臨床工学部
医療機器の安全使用 のために必要となる 情報の収集その他 の医療機器の安全 使用を目的とした 改善のための方策 の実施状況	臨床工学部		

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。



病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び  
紹介患者に対する医療提供の実績

## ○ 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院長 柏木 厚典
閲覧担当者氏名	医療サービス課長 一井 信吾
閲覧の求めに応じる場所	患者支援センター横 面談室1

## ○ 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

## ○ 紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	67.2 %	算定期間	平成22年4月1日 ~ 平成23年3月31日
算出根拠	A: 紹介患者の数	11,153人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	10,572人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	1,842人	
	D: 初診の患者の数	24,497人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
- 2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

## 規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項各号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	(有) ・ 無
<p>指針の主な内容：</p> <p>医療安全管理に関する基本的な考え方、医療安全管理のための委員会その他組織に関する基本事項、医療安全管理のための職員研修に関する基本方針、報告等に基づく医療に係わる安全確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針、医療事故発生時の対応に関する基本方針、患者からの相談に対する基本指針、患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針等</p>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>活動の主な内容：</p> <p>発生した医療事故の患者及び家族等への対応に関すること  医療事故に係る公的機関への報告及び公表に関すること  医療事故防止対策の企画立案に関すること  安全管理指針の策定に関すること  医療事故防止マニュアルに関すること  医薬品業務手順書の策定に関すること  医療事故報告書の事故状況等の分析に関すること。</p> <p>別添「滋賀医科大学医学部附属病院医療安全管理委員会規程」 参照</p>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 6 回
<p>研修の主な内容：</p> <p>講師を招聘しての講演会、院内講師による研修会、外部の研修会への参加等</p>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<p>医療機関内における事故報告等の整備 (有) ・ 無 )</p> <p>その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>ニュース・レターの発行や院内ホームページへの掲載により、職員に周知している。  毎月の重要なインシデント及びその対策について、各部署リスクマネージャーが周知し、情報の共有化を図っている。院内ラウンドによるチェックを行っている。</p>	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	(有) ( 2 名 ) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	(有) ( 3 名 ) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有 ・ 無
<p>所属職員： 専任 ( 5 ) 名 兼任 ( 14 ) 名</p> <p>活動の主な内容：</p> <p>医療事故防止及び感染予防対策の推進に関すること、医療安全管理委員会及び感染予防対策委員会への情報提供及び改善策の提案に関すること、インシデント報告の調査及び分析に関すること、安全管理に関する事例、対策等の情報収集に関すること等</p> <p>別添 「滋賀医科大学医学部附属病院医療安全管理部規程」  「滋賀医科大学医学部附属病院感染制御部規程」 参照</p>	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に対応される体制の確保状況	(有) ・ 無

## 院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有 ・ 無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>院内感染対策に関する基本的な考え方  院内感染対策のための委員会その他の組織に関する基本事項  院内感染対策のための従業員研修に関する基本方針  院内感染発生時の対応の基本方針  患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針  その他院内感染対策の推進のために必要な基本方針</p>	
② 院内感染のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>感染予防対策の企画立案に関すること  感染予防対策マニュアルに関すること  感染源の調査に関すること  感染予防対策に係る教育及び研修に関すること</p> <p>別添「滋賀医科大学医学部附属病院感染予防対策委員会規程」  「滋賀医科大学医学部附属病院感染対策チーム内規」 参照</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 5 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>講師を招聘しての講演会、院内講師による研修会、外部の研修会への参加等</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有) ・ 無 )</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>ニュース・レターの発行や院内ホームページへの掲載及び学内メールにより、職員に周知している。  感染制御部および感染対策チーム委員会において感染症の発生状況と対策について検討し、各部署の感染リンクスタッフに周知し、情報の共有化を図っている。実施状況について院内ラウンドによるチェックを行っている。</p>	

## 医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有 ・ 無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 1 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容： 平成23年3月2日（火）に講演会を開催 テーマ：抗がん剤の適正使用 講師：滋賀医大病院 薬剤部 がん専門薬剤師 森井博朗 同 化学療法部 部長 目片英治</li> </ul>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手順書の作成 (有) ・ 無 )</li> <li>・ 業務の主な内容： 4月 業務内容の変更に伴い、手順書の改定を行った (第4版)  10月 業務手順書に準じた業務実施状況の確認を行った</li> </ul>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有) ・ 無 )</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容： 医薬品添付文書情報は、改訂の都度、メーカーに請求して差し替えている また、処方オーダーシステム内の添付文書情報も逐次更新している (オーダー時、参照可能)</li> </ul>	

## 医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有 ・ 無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 7 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人工呼吸の安全使用について</li> <li>・ 輸液ポンプ、シリンジポンプの安全使用</li> <li>・ 透析液の水質管理について</li> <li>・ 人工透析の基礎知識について</li> <li>・ 医療ガスと医療ガスポンベの取扱い</li> <li>・ フットポンプの基礎知識</li> <li>・ 人工呼吸器の導入時使用研修</li> </ul> </li> </ul>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計画の作成 (有 ・ 無)</li> <li>・ 保守点検の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人工呼吸器は、メーカーによる定期点検と院内CE点検</li> <li>・ 輸液ポンプ、シリンジポンプは、メーカーによる定期点検とCE点検</li> <li>・ 除細動器等は、主に院内点検を中心に行っている</li> <li>・ 放射線機器のメーカーによる定期点検と院内点検</li> </ul> </li> </ul>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有 ・ 無)</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ インターネット情報      医薬品医療機器統合機構メール配信 厚生労働省及び近畿厚生局のホームページ</li> <li>・ メーカーによる情報      各メーカーからの情報提供</li> <li>・ 臨床工学技士会ネット情報</li> </ul> </li> </ul>	